

令和4年度

研究のまとめ

いぶき

滋賀県公立小中学校事務研究協議会

目 次

はじめに

第 51 回滋賀県公立小中学校事務研究大会まとめ ----- 1

令和 4 年度専門部・事務局活動報告

研究部 ----- 39
活動報告

研修部 ----- 41
活動報告
研修講座
初任者事務職員研修

広報部 ----- 44
活動報告
さざ波縮小版 122・123号

事務局 ----- 52
活動報告
要覧しが

郡市研究活動報告 ----- 55

あとがき

はじめに

滋賀県公立小中学校事務研究協議会では、これからの学校事務職員のあり方を考え、よりよい教育への支援につながる学校事務を展開していくために、基本方針「創造しよう！教育を活かす学校事務を」に沿って取組を進めています。

令和5年3月8日付け文部科学省 中央教育審議会答申「次期教育振興基本計画」では、「ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。(中略) 子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。」とあります。

また、「チーム学校」の一層の推進と、校務のデジタル化等の学校デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、共同学校事務室の設置・活用の促進など、私たち学校事務職員にも直接関わる内容も盛り込まれています。

このことは本会が目指す「教育を活かす学校事務」を、研究会活動を通して具現化していくことでウェルビーイングの実現と学校の課題解決に向けて学校事務の分野からアプローチしていけるのではないかと考えます。

3年前に新型コロナウイルスの感染が国内で確認されて以来、学校教育においても感染防止対策のために様々な制約や対応が求められてきました。現時点では感染が完全に終息したわけではありませんが、工夫をしながら徐々にコロナ前の状況に戻りつつあり、日常の生活や教育活動が行えるようになってきました。

本会においても少しずつ参集型の研修会を増やし、オンラインとのハイブリッド型研修との併用で各事業を実施するなど、コロナ禍においても会員の皆様に研修の機会を提供できるよう努めてまいりました。

今年度も専門部の活動や研究大会など、会員の皆様とともに取り組んできた研究と実践の概要をまとめ、刊行することとなりました。皆様方には今年度の研究会活動概要を次年度以降の取組の基軸として活用いただければ幸いです。あわせて個々の事務職員の力量や独自性を活かしながら、質の高い教育を実現するための条件整備と、組織として安定した学校事務を提供することを意識しながら、有意義な研究会活動を実践できますよう、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、本会研究活動を進めるにあたり、滋賀県教育委員会をはじめ、関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。令和4年度研究のまとめ「いぶき」の発刊にあたってのご挨拶といたします。

令和5年3月31日

滋賀県公立小中学校事務研究協議会
会長 倉辻 弘美

滋賀県公立小中学校事務研究大会まとめ

第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会開催要項

1. 大会テーマ 「創造しよう！ 教育を活かす学校事務を」
サブテーマ 「あっ！これならワタシ、できてるかも!?」
～子どもの豊かな学びと育ちへの一歩を見つけよう～
2. 目的 社会の変化に対応しながら、特色ある学校づくりを支援する学校事務を創造するとともに、経営スタッフとしての資質を向上させ、今後の学校教育の充実・発展に寄与する。
3. 主催 滋賀県小学校教育研究会校務運営（事務）部会
滋賀県中学校教育研究会校務運営（事務）部会
滋賀県公立小中学校事務研究協議会
4. 後援 滋賀県教育委員会
公益財団法人 日本教育公務員弘済会滋賀支部
5. 期 日 令和4年（2022年）11月25日（金）
6. 会 場 各市町で設定されたサテライト会場
第51回研究大会はオンライン上でLive配信します。
今年度はオンラインでの大会参加のみとなります。
7. 日 程
13:00 13:10 14:45 14:55 16:15 16:35

挨拶 オリエン テーション	全体会	休憩	分科会1・2	まとめの会
---------------------	-----	----	--------	-------

8. 参加者 公立小・中・義務教育学校事務職員
公立小・中・義務教育学校教職員
教育委員会事務局職員 等
9. 内 容
(1) 全体会 担当 湖南ブロック
(草津市 栗東市 守山市 湖南市 甲賀市)
 - ・演題 子供たちの豊かな学びと育ちを創造する事務職員になる
～地域との協働について応え合おう～
 - ・講演 講師：文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部
計画課 整備計画室長 廣田 貢 氏

(2) 分科会

	テーマ・担当	提案者	助言者	司会者
第1分科会	「教育を支援する学校事務職員をめざして」～学校事務職員のつなぐ役目とつながる可能性～	小野田 千紘 (玉緒小学校) 武田 遼祐 (八日市南小学校) 太田 美須代 (布引小学校) 緒方 孝次 (市原小学校) 野村 真紀 (湖東第二小学校) 安江 美希 (蒲生北小学校) 徳田 太一 (愛東中学校) 河村 智子 (能登川中学校) 戒能 智巳 (朝桜中学校)	文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長 廣田 貢様	浦谷 京子 (能登川北小学校)
第2分科会	・業務改善からみえた人材育成 ・「活かそう！町の共同実施を郡へ」～つぎの一步を踏み出すために～	山田 海里 (秦荘東小学校) 馬場 美和子 (秦荘西小学校) 岩瀧 裕一 (愛知川小学校) 荒木 零司 (愛知川東小学校) 千原 朝子 (秦荘中学校) 一圓 瑞季 (愛知中学校) 西野 美穂子 (甲良中学校) 寺田 莉里花 (多賀小学校) 本田 慎吾 (大滝小学校) 松本 清爾 (甲良東小学校) 大橋 拓也 (豊日中学校)	甲良町 教育長 青山 繁様	

全体会

研究テーマ

「創造しよう!教育を活かす学校事務を」

サブテーマ

「あっ!これならワタシ、できてるかも!?!」 ~子どもの豊かな学びと育ちへの一歩を見つけよう~

湖南ブロック実行委員会

提案者

西村 智子 (草津市立矢倉小学校)
岩波 緑 (草津市立笠縫東小学校)
野村 亮太 (栗東市立大宝西小学校)
青山 桃佳 (栗東市立栗東西中学校)
河上 千代 (守山市立小津小学校)
山田 絵里奈 (守山市立守山南中学校)
福本 隼人 (湖南市立甲西中学校)
足立 ひなた (湖南市立石部中学校)
藤田 佳代子 (甲賀市立大野小学校)
橋口 勇喜 (甲賀市立伴谷小学校)
角田 光優 (甲賀市立甲南第二小学校)

記録者

奥長 海央 (栗東市立大宝小学校)
金井 志緒鯉 (栗東市立金勝小学校)



【概要および内容】

○研究の目的・現状

近年、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、抱える課題は複雑化かつ困難化しています。文部科学省では、これからの教育課程について、「社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく『社会に開かれた教育課程』としての役割が期待されている。」と説明しています。

このような社会に開かれた教育課程として、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」「これからの社会を創り出していく子どもたちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成する」「地域と連携・共働しながら目指すべき学校教育を実現する」という3つのポイントが重要になると示しています。この3つの観点から、「社会に開かれた教育課程」とは、「学校の教育課程を通じて、子どもたちが社会や世界とつながり、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していける力を積極的に育もうとする考え方」であることがわかります。

そして、これらの視点から各学校においては、児童生徒や地域の実態に応じて、学校の目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、連携・協働することで教育活動を充実させていくことが求められていると考えます。

○研究に至った経緯

よりよい学校教育の実現に向けて、教育活動や学校経営などの学校の在り方を改善し、充実させていく手段の1つがカリキュラム・マネジメントです。カリキュラム・マネジメントのねらいは、児童や学校、地域の実態を適切に把握し編成した教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各学校の教育活動（授業）の質の向上を図ることです。

つまり、学校の「子ども」や地域・家庭の「人」、地域の「環境や文化」等を知ることによって実態や特色を把握し、学校教育の目的や目標を達成するために目指す子どもの姿を考え、全職員が持ち味を活かしながら力を合わせて教育活動の質の向上を図っていくことであり、学校運営において他の職員と協働して取り組む事務職員の積極的な関わりが期待されています。

実行委員会では、現状を踏まえて話し合い、日常業務において他の職員とのコミュニケーションや連携が非常に重要だと捉え、行政職としての専門的な視点から、学校教育における様々な立場の人たちとの対話や連携を通して、積極的に学校運営に関わっていきたいと考えました。また、改めてカリキュラム・マネジメントの重要性や必要性を強く感じるに至りました。

○取組内容

日常の業務のなかにある気づきから、それぞれの学校の目標や課題に向き合い、事務職員が持っている視点を他の職員と共有して考えることで、新たな視点や可能性が広がっていくのだと考えます。事務職員が普段何気なく関わっていることも、あらためて認識することで子どもの学びと育ちに、繋がっていることがわかります。その気づきを基に、カリキュラム・マネジメントに主体的に関わろうと意識し、他の職員とともに取り組むことでどのような効果があるのか、2つの実践事例を通して探ります。

【実践事例Ⅰ 甲賀市立甲南第二小学校 提案者 角田光優】

（実践に至った経緯）

甲南第二小学校は、1学年20名程度で全校児童112名の小規模校のため、教材や学校行事にかかる費用の保護者負担が大きい傾向にあります。また、近年の就学援助受給者の割合が比較的高い、という現状となっています。この2点の現状を踏まえ、経済的に余裕のない家庭が多いことに気づきました。この気づきを経て、等しく十分な教育を受けることができる環境を提供するため、保護者の毎月の負担である徴収金と、就学援助に焦点を当てて実践に取り組みました。

（実践の概要）

初任の2月頃、教材費の残高が足りない学年が2学年もあることが判明し、そこで見直しの必要性を認識しました。その反省により、2年目からは定期的な徴収計画の見直し依頼を行いました。半年経過時点で、年度当初の計画と実績を照らし合わせて、見直すべき点はないか確認を徹底しました。加えて学期末には、保護者負担での購入が適切であったか、購入業者の偏りがいないか、使用用途など、単なる数字の確認だけではなく、内容の確認もあわせて行いました。また、家庭の経済状況や、就学支援としての制度を知ってもらうため、1・2年目の教員に向けて就学援助のOJTを実施しました。

(成果と課題)

早期から計画の見直しを定期的実施したことで、担任から相談を受けるようになり、時間に余裕をもって今後の計画について考えることができるようになりました。OJT を受けた教員が学校の現状や課題を知り、今後の会計執行について考えるきっかけにつながったと感じています。それぞれの立場から意見を出し合い、組織で協働できていることを実感できました。

課題として、業者間の価格の比較をする習慣がない点、公費と徴収金で負担するものの区別についての理解不足があります。

(今後の取り組み)

教材の価格を比較する習慣がない点について、特に単価の高いものは事前に見積もりをとり比較するよう声掛けをします。公費・徴収金負担の区別の理解不足については、年に一度徴収金研修を行い、区別の理解不足の解消だけでなく、徴収金の取り扱い方全般の共通理解をはかっていきたいと考えています。また、この2点に限らず、あらゆる視点からの気づきをその都度共有していくことで、学校組織全体で動くことにつながっていくのではないかと思います。

【実践事例2 甲賀市立伴谷小学校 提案者 橋口勇喜】

(実践に至った経緯)

全校児童 414 人、そのうちの1割を、母語を日本語としない児童が占めています。また、学力が全国平均より低く課題となっています。日本語を母語としない児童の多くは、言語活動や課題解決に困り感を強く持っていることから、文書を読み解く力、自身で問題を解決する力、文化の違い等を理解し、日本で生活していく力をつけてほしいと考えています。日本語の理解が難しい児童について、より多くの日本語に触れる機会が必要だと考えました。

(実践の概要)

1つ目は自身で問題を解決する力についてです。

職員と話すなかで、子どもたちがよくトラブルになるのは、自分の思いをうまく言葉で表現できないことが原因なのではないかと考えました。その問題を解決するために、子どもたちが職員室に来室した際、自分の言葉で思いを伝えられるように話を聞いたり、答えを引き出せるような問いかけをしたりするように心がけました。そうした手立てにより、子どもも正しい話し方がわかり、少しずつ自分の言葉で正しく思いを伝えることができるようになってきています。

2つ目は日本で生活する力についてです。

敬語の言葉遣いを身に着けられるように、私自身の言語活動を見直しました。丁寧な言葉で子どもたちとコミュニケーションをとることによって、正しい日本語に触れる時間が増え、子どもたちの言語環境も整い、また苦手意識の軽減につながり、日本語を話してみようという意欲につながったと思います。また日本語指導担当や母語支援員と相談し、より多くの日本語の文章に触れてもらうため、外国語訳された児童用図書や漢字イラストカードの購入を行いました。子どもたちは図書やイラストカードを使った遊びを通して日本語を学びました。

（成果）

子どもが自分の言葉で思いを伝えられるよう、根気強く接することにより、日常生活の中でも日本語を積極的に使おうとする姿が見られるようになりました。また、丁寧に話を聞くことにより、子どもたちは話を聞いてもらえると安心し、日本語で話し出す場面が見られました。日本語指導担当や母語支援員と相談し、外国語訳された児童用図書や漢字イラストカードを購入することにより子どもたちは遊びを通じて楽しく日本語を学ぶことができました。担任と母語支援員が連携することにより、子どもや保護者の困り感や、トラブルになりそうな事案に対して先手の対応をすることができました。また、保護者にわかりやすいように、文章だけでなく表で未納額、徴収済額をあらわした文書を外国語訳して配布し、場合によっては必要な制度についても提案することができました。

（今後の実践）

子どもたちがさらに力を伸ばしていけるようなサポートを、会話を通じた直接的なかかわりや、教材・備品購入等の学習環境の整備・提案の両面から行っていき、学習指導要領にある言語活動の充実につなげていきたいです。就学援助費や特別支援教育就学奨励費の制度内容や未納額について、保護者に理解してもらえるように、わかりやすい情報発信を行いたいです。母語支援員の時間数が足りない、教材や備品の購入ができないといったことがないように、管理職と協力して必要な予算を配分してもらえるように、教育委員会に要望していきたいです。

甲賀市立甲南第二小学校では、学校徴収金についての見直しから保護者負担軽減を図り、子どもたちの学習環境を保障する取り組みとなりました。甲賀市立伴谷小学校では、日本語を母語としない子どもたちや他の関係職員と積極的に関わることで、事務職員として子どもたちの学力向上、進路保障につながる取り組みとなりました。

また、この実践には共通して、子どもや家庭、地域の実態を適切に把握し、他の職員と協働して「育てたい子どもの姿を実現していく」ために考え、行動する事務職員の姿があります。カリキュラム・マネジメントの切り口は職種や立場によっても様々です。

管理職や教員、地域の方とともに思考するなかで、今後の継続的な取り組み方法は新たな視点を持ち、事務職員が主体的にカリキュラム・マネジメントに関わっていく可能性が広がります。今回は「学習保障」の観点からカリキュラム・マネジメントの実践事例を学ぶことができましたが、財務、福祉、情報、地域協働、総務、教科、コミュニケーションなど、様々な観点や実践からカリキュラム・マネジメントに関わっていくことができます。そして、それは決して特別なことではなく、教職員間での何気ないやり取りの先に、子どもたちの豊かな学びと育ちに見えてきます。

○まとめ

「あっ!これならワタシ、できてるかも!？」このように気づけたことは大きな一歩です。その気づきをあらためて自分の中で認識し、今、事務職員としてどのような視点で課題と向き合えるのか、学校組織としての取り組みの中で事務職員の専門性をどのように活かして関わっていくのかを考え、他の職員と協働して学校運営にアプローチしていくことが大切です。

そして、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を社会と共有し、地域と共にあ

る学校としての視点を広げ、子どもたちの豊かな学びと育ちを地域と共に育んでいくと考えた時、学校事務職員としてどのようなことができるか、改めて考えることも必要です。

今後の「可能性」を見つけるのは私たち一人一人であり、また同時に、共に探し、考えることもできます。わたしたちが願う将来の子ども姿について、深い対話を通して共に学び合えることを願います。

講演

「子供たちの豊かな学びと育ちを創造する事務職員になる

～地域との協働について応え合おう～

講師

文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長 廣田 貢氏

〈子どもたちの生きる未来〉

少子高齢化、人口減少財政難等、様々な課題が深刻化していると言われています。また、Society5.0 超スマート社会といわれ、IoT で全ての人とモノがつながり新しい価値がうまれていく社会が、今まさに目の前にあります。

例えば、子どもたちの65%が今存在していない職業に就く、あるいは10～20年程度で約47%の仕事が自動化されるとも言われています。

そんな時代だからこそ、子どもたちには、予測困難な時代を生き抜いていく、そこに立ち向かって乗り越えていく力が求められています。この力をどう育んでいくのかが、とても大事なことです。

一方で、教室の中にたくさんの特性を持った子どもたちが在籍しています。例えば、発達障害の可能性のある子ども、特異な才能を持っている子、不登校の子ども、家庭に課題を抱える子等、いろいろな課題があります。先ほど、日本語を母語としない子どもへの対応という話もありましたが、様々な特性を持つ子どもたちにどう対応していけばいいのか、という個別最適な学びを考えていく必要があります。一人一人多様な幸せを、どう生み出していくのか、どう新しい価値を創造していくのか、と考えたときに、個々の子どもたちに視線をおいて「どう多様な学びを展開していくのか」がより求められている時代です。

〈個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実〉

個別最適な学びとは、「多様な子どもたちを誰一人取り残さず育成する」ということです。一人一人の個性、特性や性別の違い、障害の有無、日本語を話せるか、それぞれの状況に柔軟に対応し、興味、関心を生かした学びを展開していけるかと考えたとき、一人1台端末の対応となります。ICT を有効に活用しながら、どう一人一人の学びに対応していくのかが求められています。また、その学びが教員だけに閉じていないかを確認する必要があります。もう一つ、共同的な学びということを考えても同じ問いかけが生まれてきます。探究的な学びや体験活動を通して、子ども同士、多様



な他者と協働していく機会を作っていこうと思ったときに、学校における学びが社会や地域に開かれているかということ問いかけたいと思います。

社会や世界が目覚ましく変化している中で、その変化をどのようにして学習に取り入れていくのかということ、そして、子どもたちにどんな力を身につけていきたいか、どのようなリソースを有効に活かしていくのか、そんな視点をもって学習を考えていく必要があると言われていました。

もう一つ紹介したいことは、鳴門教育大学教授 久我直人先生の「子どもたちの意識と行動の構造」の研究から、子どもたちが「頑張りたいな」、「人に優しくしたいな」と思う根本の条件とは何か、それは「自分への信頼」だと言われています。「自分への信頼」を高めるには、一つが「保護者への信頼」です。保護者への信頼が高ければ高いほど、自分への信頼が高くなっていきます。もう一つが「保護者以外の誰かから包まれているという被受容感」によって、自分への信頼が高くなっていきます。周りにいる人たちから励まされたり、温かい眼差しを向けてもらったりして、信頼されている、愛されているという実感をもつことが、自分への信頼に繋がるということです。この時、保護者以外の周りにいる人たちを思い浮かべていくと、学校の先生、クラスメイト、地域の方々、そして、学校事務職員がいます。何気ない日常の関わりの中で、温かな眼差しと勇気づけにより、子どもたちの心は育っていきます。

〈地域とともにある学校づくりと学校事務職員〉

まず、ある目的のために協力して行動するグループのことを「チーム」といいます。チームを率いていくリーダー、いわゆる校長、教頭が、目指す姿やビジョンを明確に示して、メンバーと意識や取り組みの方向性を共有し、どうリーダーシップをとり、マネジメントをしていくかが求められています。ただ、このチームワーク溢れる学校を作っていこうと思ったときに、リーダーだけがこのリーダーシップとマネジメントを発揮するのではなく、大事なことは、一人一人が主体的に動くということです。

学校教育法が改正され、事務職員は事務をつかさどる存在になっています。事務職員が学校運営に参加することによって、学校経営体制が強化され、マネジメント力が向上することなどが言われていますが、チームの中でどのように貢献できているか、今一度、振り返ってみてほしいと思います。

自分自身が国立競技場の建設プロジェクトの担当課長をした時に大きな壁にぶつかりました。その時に意識したのは「自分の強みを発揮するだけではなくて、自分が弱いところを誰かに助けてもらうこと」でした。担当課長として、自分が全部を引っ張るのではなくて、それぞれの得意分野があり、強みがあり、弱みがあり、それをパッチワークのように繋げていけばいいのではないかということに視点を置いて動いていくようにしました。それぞれの個性、多様性を前向きに捉え、それを創造性につなげていくようチャレンジしていきました。チームを作っていく時に大切なのは、この強みを生かして弱みを補い合うということです。

同じゴールに向かって一緒に活動していこうとした場合、より多くの人たちの想いを共有し、共感を広めていくことができるかが大切です。学校にはたくさんの保護者、地域の方がいます。地域との連携・協働をより一層進めていこうと思ったときに、どんな手段・場を用いればいいのか、どうやって自らの思いを乗せて伝えていけばいいのか、どうやったらより広がりやすいのか、ということを考えながら地域との協働を進めていくことが大切です。その一歩が、情報を共有することだと思っています。

す。そして、課題・目標やビジョンを共有して、具体的な一歩を一緒に踏み出していく。そして、それが成功体験として次に繋がっていくというサイクリングを是非意識してほしいと思います。

チームワークのプロセスとして、学校の中で地域との協働を進めていこうと思った時に、まずゴールを共有し、校長先生ができること、教頭先生ができること、そして事務職員ができること、それぞれ役割分担を図りながら、コミュニケーションを取りながらチームとして動き、アクション（協働）が蓄積されていくことによって、モチベーションに作用されていきます。

コミュニティ・スクールという仕組みがあり、学校協議会を置くことで地域や保護者の代表、コーディネーターなど様々な方が学校運営について話し合います。学校の中に、目標やビジョンを共有し行動していくための「対話」の風土を創ることが大切です。この学校協議会の運営にも学校事務職員が関わっていく大きな可能性があります。

東京都の三鷹中央学園における事例で、パワーアップアクションプランというものを作り、目指す目標となる学園生像に向けて、学校でどう取り組んでいくのか、子どもたちがどう取り組んでいくのか、家庭や地域でどう分担をして役割を担っていくのかをまとめています。

もう一つ、長野県塩尻市の事例で、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの9年間、地域の良さを発見する学習の中で体験的な学びを展開しています。自分の良さや可能性を発見する学習で、一人一人に着目しながら達成感を引き出していき、中学校3年生が地域に飛び出して地域の役に立つ生徒になっていきます。こうしたこの地域とともにある学校をと考えたとき「それは誰がやることなのだろうか」ということを意識します。

校長や教頭が中心になり地域連携担当の先生がやっていますが、事務職員が力を発揮できることがあります。「学校事務職員の自分にこそ、できることはないだろうか」と他人事からジブンゴトとして捉えるということから始めていくとよいと思います。

学校組織マネジメント、ランドデザインの策定にあたって、事務職員が自ら関わっている事例があります。その協議会や打ち合わせに事務職員が参加し、学校経営という視点から、あるいは学校財務という視点から意見を述べています。プランマネジメントの際、教材を選択していくこと自体がカリキュラム・マネジメントに直結していきますし、教材を活用して学校の中に学びの場を作っていく時にも事務職員にできることがあります。授業で地域の人たちに来てもらうためコーディネーターとやり取りするときに、その人たちの顔が見えている存在として、学校の一番表に立っている事務職員が力を発揮できることがあると思います。

地域との連携・協働・コミュニティ・スクールの対話や協議の企画自体を事務職員が行っていることもあります。学校運営協議会や地域への広報発信、学校だよりを作る中で先生方の投稿を集約していく中に事務職員自身が届けたいメッセージを入れていくなどの関わり方もあります。また、業務改善として今の取り組みを見直し、どう精選していくかの会議の事務局を、教務主任と事務職員がしている事例があります。学校事務職員が参画していく中で、地域との協働や学校の業務改善が進んでいく事例が全国に出てきています。

〈あっ!これならワタシできてるかも!〉

帝京大学文学部の紀要に、「地域連携業務への対応について学校事務職員がどのように関わっているか」ということを勤務年数ごとに示したデータがあります。地域人材の発掘について、経験5年未満が5.6%に対し経験30年・30年以上になると2割あるいは、23%、24%になっています。行政の関係情報の収集という観点は経験5年未満でも多くの方々が関わっており、キャリアを追うことにより高くなっています。経験5年未満であっても、6割近くが地域人材との接点を持っており、ここを取っ掛かりにしていくことで大きな可能性につながります。

学校の窓口として地域の方々と話し、そこから自分ができることを考え、その中に「あれ?これならワタシ、できているかも」ということがあったりします。まずは、自分自身の取り組みを振り返り、すでにできていること、できることに目を向けていきます。そして、自分の強みや可能性はどんなところにあるのかを考えていきます。自分の強みや可能性は制限されているものではありません。ミドルリーダーあるいはリーダーの方々は立場やキャリアが上がっていくにつれて、コーディネーターとして人や組織を繋いでいくことや、より積極的に提案・実践・助言をしていく存在になることが期待されています。

発表のあった実践事例を踏まえて、いずれの事例も「子どもたちの幸せを生み出すために、自分にもできることがあるんじゃないと考えて行動している」ということが重要なポイントだと思います。「事務をつかさどる」という改正がありました。学校事務というのは予め決められていて、その範囲しかやってはいけないということではないのです。そして「思いを口に出して共有し、共感を広げる」ことです。自分ならできるのではないかと思ったとしても、それを口に出さないと、行動に移すのは難しいことです。これまでの業務に囚われないで視点を外に向けるということが大事です。

新しいアクションに繋げるために、学校の中だけではなく、外部または組織と関わってチームで動くことで可能性が広がります。小さな一歩を提案し、踏み出してみてください。

例えば実践事例の就学援助・学校徴収金の関わりについて、今の状態を客観的に整理・分析し強み・弱みは何かをしっかりと共有する。発展的な取り組みあるいは提案として、例えば教頭と一体となって関係機関との連携・調整を図っていき、民生委員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援チームなど様々な機関と繋がるという、踏み出す一歩があると思います。

2つ目の実践事例、母語を日本語としない児童・家庭との関わりという観点から、「全ての子どもたちの可能性を引き出すことを共通認識する」ことが大切です。1割の子たちが、日本語を母語としない子どもたちで、十分なことが伝わっていないのではないかと、どう言ったら伝えられるのかと考えて行動したことはとても価値ある行動です。さらに発展的な取り組みとして、この日本語を母語としない児童や家庭を支援する機関・団体、地域のリソースを把握し繋ぐことができないかを、校内で対話を広げ、具合的な連携や調整を図っていくことも考えられると思います。

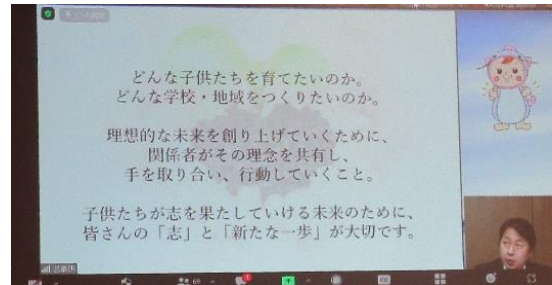
いずれにしても、多様な特性を持つ子どもたちを取り残さず、コミュニティ・スクールの母体である学校運営協議会の議題として取り上げたり、保護者や地域の方々にも知ってもらう研修を実施したりすることも有効だと思います。地域人材を活かす方法・立場として、学校のどこにニーズがあるのか、どんな課題を地域と一緒に解決していきたいのか思いを口に出していきます。ゲストティーチャー、部活動、あるいは安全管理など、先生方にヒアリングしながら地域との連携・協働を模索していくこ

とが重要なプロセスです。学校と地域の間に対話や答え合いの風を起こしていく、その当事者として事務職員がいます。

地域とともにある学校づくりを進めるために、学校事務職員の自分ができていること、これからできること、それが次の一步に繋がっていくと思います。

〈マイチャレンジ〉

最後に、「私たちは何者であるか」思考してみてください。事務職員という存在は、どんな存在なのだろうか。子どもたちの豊かな学びと育ちを創造することが、存在意義になります。主体的に考え、行動する事務職員に転換し、誰かが何とかするというのではなく、「私が、私たちが行動していくのだ」と考えてみてください。



そして、自分自身の強み、可能性を広げて、共同学校事務室をチームとして機能化・活性化させていきます。こうしたことを通して、他人事からジブングトに捉え、これからの豊かな学びと育ちを創造する事務職員へと変わってほしいと思います。

～意見交流～

テーマ「地域とともにある学校づくりのために私たちができること」

～グループワーク～

今日の学びを踏まえて、子どもたちの豊かな学びと育ちを生み出すために、あなたが踏み出したい一歩(マイチャレンジ)を書こう

第51次研究集録参考文献一覧

書籍

福嶋浩彦 「市民自治 みんなの意思で行政を動かし自らの手で地域をつくる」 ディスカヴァー携書

板倉杏介 醍醐孝典 石井大一郎 「コミュニティマネジメント」 中央経済社

堀江貴文 「すべての教育は「洗脳」である」 光文社新書

瀧本哲史 「僕は君たちに武器を配りたい エssenシャル版」 講談社文庫

瀧本哲史 「ミライの授業」 講談社

奈須正裕 「「資質・能力」と学びのメカニズム」 東洋館出版社

奈須正裕 「次代の学びを創る知恵とワザ」 ぎょうせい

妹尾昌俊 「学校事務 “プロフェッショナル”の仕事術」 学事出版

妹尾昌俊 「変わる学校、変わらない学校 学校マネジメントの成功と失敗の分かれ道」 学事出版

妹尾昌俊 「学校をおもしろくする思考法」 学事出版

妹尾昌俊 「こうすれば、学校は変わる! 「忙しいのは当たり前」への挑戦」 教育開発研究所

ひろゆき 「1%の努力」 ダイヤモンド社

森山至貴 「10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」」 WAVE 出版

学校事務 2021年 7月 8月 10月

2022年 1月 5月 6月 7月 11月 学事出版

WEB

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 「アジャイルソフトウェア開発宣言の 読みとき方」

<https://www.ipa.go.jp/files/000065601.pdf>

一般財団法人 人生100年社会デザイン財団 「開放系の試行錯誤のプロセスそのものが学び - AAR 循環について -」

<http://www.100design.or.jp/event/aar/>

GMO MEDIA 「VUCA 時代を生き抜くマインドセットは「デバッグ主義」 - 元文科省副大臣 鈴木寛」

<https://coeteco.jp/articles/10564>

第1分科会

研究テーマ

教育を支援する学校事務職員をめざして

～学校事務職員のつなぐ役目とつながる可能性～

東近江市立小中学校教育研究会



提案者 小野田 千紘 (玉緒小学校)

武田 遼祐 (八日市南小学校)

太田 美須代 (布引小学校)

緒方 孝次 (市原小学校)

野村 真紀 (湖東第二小学校)

安江 美希 (蒲生北小学校)

徳田 太一 (愛東中学校)

河村 智子 (能登川中学校)

戒能 智巳 (朝桜中学校)

司会者 浦谷 京子 (能登川北小学校)

助言者 文部科学省

大臣官房文教施設企画・防災部

計画課 整備計画室長

廣田 貢様

記録者 田中 千秋 (甲西北中学校)

井澤 宏子 (石部中学校)

1. はじめに

(1) 東近江市について

東近江市は平成17年2月に1市4町が合併し、その後平成18年1月さらに2町が編入して誕生し、今年で17年目になります。

琵琶湖の東側湖岸から三重県との県境である鈴鹿山脈まで、湖東平野に位置する人口11万3000人の市です。

(2) 東近江市事務研究会組織について

◎研究会組織構成(令和4年度)

・小学校22校 中学校9校 事務職員35名

・経験年数

10年以下12% 10年～20年目37% 21年～30年目17% 30年以上34%

・男女比 1:6

東近江市事務研究会は合併時における様々な混乱をスムーズに乗り越えるために、いち早く設立し、合併後の東近江市での学校における事務取扱様式やシステムの開発や市内統一、学校事務に係る諸規定を整備するなどして現在の東近江市の学校事務の基盤を作りました。

その後、平成23年に事務支援センターを中心とする共同実施組織が構築され、共同実施

における業務が主体となる中で、東近江市事務研究会は事務職員の研修、研究を中心に活動を進めてきました。

東近江市事務研究会では、設立当時から研究テーマを「教育を支援する学校事務職員をめざして」として、また近年のサブテーマは、令和2年度は「教育を支える学校財務を考える」、令和3・4年度は「学校事務職員のつなぐ役目とつながる可能性」として活動しています。

学校全体に目を向け、教育を支援する学校事務職員とはどのようなものなのか、学校全体がスムーズに動くために私たちにできることは何なのか、そこに目を向けられる、気づける事務職員でありたいと考えています。そして「誰かが今抱えている悩みや負担感、困りごとは、きっと自分だけのものではなく、自分以外の誰かの不安や悩みを解消することにつながるのではないかと仮定し、事務職員の困り感を出し合いました。拳がってきた困り感を解消するための手立てを話し合う中で、この困り感は事務職員だけではなく、きっと教員も同じ事で困っているのではないかと気がきました。そして、その困り感の解決こそが事務職員が「つなぐ」という役割をはたすものではないかという考えにたどり着き、研究を進めてきました。研究会から生まれた成果物が、事務職員の日常の業務を助けるだけでなく、事務職員以外の職員も助けることができたら、研究会として理想の在り方だと考えます。

『誰かに悩みを伝えたときに、初めて解決方法に出会えるチャンスが訪れる』を合い言葉に、令和2年度～令和4年度の取り組みを紹介していきます。

2. 取り組みの紹介

(1) コロナ禍における研修体制の確立

コロナ禍で参集型研修が中止となる中でも、安易に中止したり一方的なオンデマンド研修にしたりするのではなく、横のつながりを感じられる研修を続けていきたいと考え、思いついたのが「課題解決シミュレーション」による研修です。

課題解決シミュレーションとは、仮想「東近江学園」のなかで、経験の浅い主人公「田中君」が直面する課題やテーマを市全体で一つ設定し、それを各地域部会の中で話し合いながら、田中君へのアドバイスや解決策を出し合うものです。ただの事例検討では、規模や地域性など課題が多岐にわたる東近江市の実態に合わないので、より共感できて自分ごととして捉えることを重視する研修の在り方を考えることに成功しました。

① 令和2年度の取り組み:財務

身近な「学校財務」「ヒアリング」「未納対策」の3つをテーマとして、学校に主体的に関わっていくためのヒントになればと思いました。

テーマごとに自分の意見をまとめ、地域部会で意見交換をしました。小規模校ならではの悩みや、外国人児童への対応、未納対策など、地域性の違いを感じることができました。研究推進委員会でまとめを作成し、共有することで全体研修のような振り返りができるようにしました。さらに3つのテーマからみえてきたものを考察し、令和2年度の総まとめを全事務職員に提示しました。

令和2年度の財務の研修を通じて、事務職員が求めているもの、必要なものを追求していくと、「コミュニケーション」「連携」「信頼関係の構築」というキーワードが見えてきました。コロ

ナ禍で環境が一変し、事務職員同士で「積み上げるものや、つながるもの」が減り、歪みを感じていました。私たちの「つながり」は事務職員（市内・県内）、市教育委員会、現場職員、地域と多方面にわたっています。そのつながりを強化することで、よりよい学校運営につながれるとコロナ禍で改めて気付きました。

②令和3年度の取り組み:つながり

令和3年度は校内外の「つながり」をテーマに、「課題解決シミュレーション」を発展させました。

「PC 関係」と「仕事の割り振り」の2つのテーマについて地域部会ごとに交流を行いました。

令和3年度の振り返りは紙面でのまとめではなく、動画データを市内全事務職員に配布しました。コロナ禍で制約されたなかでしたが、課題解決シミュレーションという新たな研修方法で、困り感を共有したことにより、より横のつながりが強くなったと感じています。

【市内事務職員に配布した動画の紹介】

仮想学園「東近江学園」に勤務する経験年数3年目の田中君の周りではつながりに関する困り感が増幅し続け、凶悪な怪物「コマッタナー」を生み出してしまいました。田中君は「コマッタナー」から東近江学園を救い、笑顔あふれる学園を取り戻すことができるのでしょうか？

第一話「愛東メロンとパソコンの設定」（あらすじ）

年度始めの忙しい中、先生たちがプリンターの設定や Microsoft365 のサインインの方法が分からず困っていると怪物「コマッタナー」が現れました。田中君はパソコンに詳しい愛東学園の徳光さんに助けを求めます。徳光さんは田中君に「パソコン設定マニュアル」と「愛東メロンの兜」を渡しました。田中君は人と情報をつなぐことによってこの問題を解決することができました。

第二話「永源寺こんにゃくと管理表」（あらすじ）

教頭先生の不在日の出来事。市教委から、この管理番号のパソコンは誰が使っているのか、設定作業をしたいから電源を入れてほしいという連絡がありました。田中君はすぐに答えることができずに困っていると怪物「コマッタナー」が現れました。翌日、この話を教頭先生に伝えると、永源寺学園の織田さんが上手に管理をしていると聞きました。

田中君は織田さんにどのように管理しているのかたずね、織田さんからパソコンの管理番号一覧表と、あらゆるシステムの ID とパスワードを個人ごとの一覧表にまとめる管理表、さらに「永源寺こんにゃくの靴」も手に入れました。田中君は物と情報をつなぐことによってこの問題を解決することができました。

第三話「能登川水車とフォルダ内ファイル一覧作成システム」（あらすじ）

教頭先生から「最近、事務職員がみんなの困り感を解決するシステムを色々作ってくれて便利で助かっていると先生や教育委員会で広まっている」という話をされました。便利な物

は共有して広めていこうと事務職員の間でも話をしていて、困り感を共有することは大切だという話をしていると、教頭先生より新たに昨年度の監査のデータが見つからなくて困っていると相談をされました。田中君も探してみましたが1時間経っても見つからず困っていると怪物「コマツナー」が現れました。探していたファイルは全く別のフォルダに入っていたのですが、教頭先生は「一瞬でフォルダ内のファイルがわかるような魔法のようなシステムがあったらいいな」と言いました。

後日、田中君が共同学校事務室でこの話題を出すと、能登川学園の川北さんに何とかできないか相談してもらえることになりました。その後、田中君は指定したフォルダの中に入っているファイルの名前が一覧になり、リンクで直接ファイルを開くこともできる「フォルダ内ファイル一覧作成システム」を手に入れ、校内で先生方に紹介、共有することができました。さらに「能登川水車の盾」も手に入れました。

田中君の攻撃（あらすじ）

周りの人に助けられながら数々のスキルと装備を身に付け、レベルアップに成功した田中君は怪物「コマツナー」と戦い、無事倒すことができました。

このようにして田中君は周りの人に助けられながら東近江学園を「コマツナー」から守るための「つながり」を築き上げました。このつながりは、東近江学園だけに収まらず、東近江市内全ての学校に広がっていきました。子どもたち、教職員、関係機関の人たちみんなの笑顔あふれるとっても素敵な東近江市へととなりました。

3. 困り感から生まれた成果物の紹介およびアンケート考察

令和3年度の研修を受けて、すぐに解決できそうな下表の6つの成果物を作成しました。

令和4年度には、作成したシステムが学校現場でどのように活用されているかアンケートをとりました。成果物の紹介とアンケート結果、考察を紹介します。

No.	課題解決に向けて考えられること	具体的な成果物
(1)	いつでも必要なマニュアル等を確認できるシステムや情報の周知	校務用パソコンの設定についての動画作成
(2)	市教委からの問い合わせにも瞬時に対応できるようにする	校務系パソコン使用者・学習系パソコン配置一覧
(3)	引継書に Microsoft365 等の PASS の記載	教職員の個人用 ID・PW
(4)	業務内容の可視化 担当者変更時のフォルダ内容の確認	ファイル一覧作成システム
(5)	モバイルメッセージアプリケーションのように、質問すればすぐレスポンスがあるようなものの作成	Teams チャットの活用
(6)	共同学校事務室の経営にあたり、他校の行事予定を把握したい	「業務調整カレンダー～調整くん～」の作成・活用

① 校務系パソコン設定

4月当初だけでなく、システムの更新やパソコンの故障が起こる時があり、その都度設定が必要となります。「校務用パソコンの設定マニュアル」は、設定が必要な項目ごとに画面を表示してわかりやすく説明されているので、担当者が不在でも自分で設定することができます。

アンケート結果では、大変満足・満足の回答が8割と多く、たくさんの人の困り感が解決できたのではないのでしょうか。

作業時間が大幅に削減された、作業内容がわかりやすく説明されているので、パソコンが苦手な職員でも設定することができたなど、肯定的な意見が多かったです。

今後も引き続き職員への周知が必要だと考えています。

② 校務系パソコン使用者・学習系パソコン配置一覧

学校のパソコン運用管理システムの設定、更新などは市教委のパソコンから作業されます。上手く設定できない場合は、学校へ連絡があり、パソコン番号で操作指示が伝えられるため、先生方が使用する校務用パソコンと各教室の学習用パソコン、電子黒板の番号を一覧表にし、校内で共有することで、誰もがすぐに対応することができます。

アンケート結果では、大変満足・満点が5割ありましたが、どちらとも言えないが4割と一番多かったです。管理職が対応することが多く、使用したことのない事務職員がいると考えられます。今後は事務職員の活用が期待されると考えます。

この一覧表の作成で、学校だけでなく市教委の作業時間の短縮にもつながっていると考えられます。修繕等でパソコンを交換する場合もあり、一覧表で管理することで適切な備品管理にもつながっています。

③教職員の個人用 ID・PW 表

必要な時に ID・パスワードがわからない職員が多く、そのたびに管理職や事務職員が対応していました。

「教職員 ID・パスワード表」を作成することで、様々なシステムの ID・パスワードを一つのデータで管理でき、職員ごとの ID・パスワード表を印刷することもできます。

アンケート結果では、大変満足・満点が5割ありましたが、どちらとも言えないが4割と一番多かったです。管理職が対応することが多く、今は使用したことのない事務職員もいますが、異動時の引継ぎ書類としても使用できるので、今後は事務職員も関わっていくと考えられます。

担当者の負担軽減になりましたが、ID・パスワードの変更は各自でできるので、変更後の ID・パスワード表の保存については市内で統一したルール作りが必要だと考えています。

④ファイル一覧表作成システム

このシステムは、作成されたエクセルシートがリンク表示され、クリックするだけでファイルを開くことができます。また、フォルダ内のファイル一覧をエクセルに書き出すことや、印刷することも出来ます。

アンケート結果では、大変満足・満点が4割ありました。しかし、どちらともいえないも4割と

なっていて「使い方がわからない」との声がありました。

システムの内容について認識が薄く、実用場面がイメージできていないと考えられます。

今後、先生方に使い方を詳しく紹介して使ってもらうことで、多くの職員の業務の時短に役立つシステムになると思います。

⑤Teams チャットの活用

コロナ禍で事務職員だけで話をする機会がなくなっていた中で、気楽に悩みを相談したり、情報を共有したりする方法として Teams のチャット機能を利用し、地域や研究推進委員会など、10 人程度のグループに分けて利用しています。

このチャットの活用については、約7割の事務職員が満足していました。

チャット機能は気軽に送信できるというメリットがある一方、膨大なチャット量になり、慣れない者には負担になったり、話についていけなかったりということもありました。

他にも回覧レポートや電子会議室などの交流の場もあり、情報共有ツールの乱立を防ぐ手立てを考えていく必要があると感じています。

⑥「業務調整カレンダー～調整くん～」

Teams のチャット上にエクセルで作成した調整くんを載せ、各校が年間行事を入力することにより、他校の行事を把握し、会議等の日程調整をできるようになりました。

アンケート結果では 8 割の事務職員が大変満足・満足だと感じています。

事務職員だけにとどまらず、教員の主任会などでも活用が期待できます。ただ、正確でないと本来の役割をはたせないで、最新の情報になるように職員会議後に自校の欄を見直すなど、工夫が必要になってくると思います。

4. これからの東近江スタイル

滋事研研究大会の分科会提案において、これまでは共同実施を中心とした提案でしたが、今回は初めて東近江市事務研究会研究推進委員会が担当しました。

共同実施組織におけるリーダーが主任事務主査及び事務主査の経験豊富な事務職員から選出されるため、事務研究会研究推進委員のメンバーは必然的に若い世代の事務職員が多くなっており、自由で斬新な発想で研究を進めることができたと感じています。

日常の困り感から現状を振り返るとともに、何が大切なのかを見つめ直し、解決に向けて具体的な成果をあげることができました。

東近江市における共同実施は共同学校事務室への転換期を迎えているため、今後はこれらの動きにタイアップしながら研究会における活動を進めていく必要があると考えています。

《東近江市の共同実施について紹介》

平成 31 年 1 月に県教育委員会から出された「公立小中学校事務の共同実施に関する規則(参考例)について」を受けて、事務支援センターを中心に課題別部会と地域部会から編成していた共同実施組織を、令和 4 年度から 4 つの共同学校事務室を設置し業務を進めています。これまで課題別部会で実施していた諸手当認定審査業務などを各共同学

校事務室で行い、共同購入事務や文書管理事務は共同学校事務室が分担して受け持つことにしました。

事務支援センターは市全体の総括的な役割を担い、市内の学校で適切な学校事務が行われるよう関係期間と連絡をとり、指導および業務支援を行っています。

課題別部会のうち、研究推進部会および ICT サポート部会で行っていた業務は、その業務内容から共同学校事務室に移行せず、事務支援センター内にタスクチームとして設置しました。

業務を行う事務室については、地域ごとに 4 箇所の設置を要望していますが、今年度まず五個荘中学校内に事務支援センター北部分室として設置され、五個荘・能登川共同学校事務室と湖東・愛東共同学校事務室が業務を行っています。

《研修プログラムについて紹介》

令和3年12月に県教育委員会から出された「滋賀県公立小中・義務教育学校事務職員の職務に応じた人材育成指標」の通知を受け、これまでの研修プログラムを見直すとともに、広域における研修制度の実現に向けて検討を進めています。

平成29年10月に策定された「東近江市小中学校事務職員研修プログラム」は、求める事務職員像を「確かな専門性と豊かな人間性を兼ね備え、児童生徒の学びを支援すべく、学校経営チームの一員として、主体的に学校経営に参画する事務職員」とし、実務研修17項目、資質向上研修22項目から編成され、経験年数と昇任時などステージに応じた内容を受講していきます。

研修用テキストと研修用DVDを作成し、テキストを見ながらDVDを視聴して研修しています。視聴後は「研修受講報告書」を事務支援センターに提出します。研修用テキストは事務職員一人1冊ずつ配布しています。DVDの動画も現在は動画共有サービスにアップロードし、東近江市の教職員ならいつでも視聴できるようにしています。

研修テキストは研修実施者である学校長にも配布しています。事務職員用のテキストに加え、研修のポイントについてまとめたものが綴じられています。

現在は研修推進のタスクチームが中心となり研修を実施しています。年度の初めに研究受講対象者を把握し、研修形態（動画視聴、学校長による研修等）を検討し、市教委を通じて勤務校あてに研修案内を発出しています。

このように独自の研修制度を作り上げてきましたが、人材育成指標の通知を受け、研修プログラムの見直しに取り組んでいます。

東近江市単独で全ての研修を実施するには負担が大きく研修の質を確保できないため「地域みんなで育てよう、地域みんなで育っていこう」を合い言葉に、令和4年7月には近隣市町（近江八幡市、蒲生郡、愛知郡）による第1回目の広域新規採用事務職員研修を実施しました。また、広域研修を今後も継続的に実施できるよう、2市3町の地教委担当者と共同実施代表者による「小中学校事務職員研修の推進にかかる連絡会」を開催し、協議を行っています。10月には全事務職員対象の資質向上研修を合同で実施し、参加者50名を超える広域研修となりました。次年度以降も広域研修として新規採用事務職員研修及び2年次、3年次研修を継続して行っていく予定です。

また、広域研修を行う各市町において、研修対象者の区分やライフステージにおける研修の時期などの大枠が共通した研修プログラムが必要となることから、「小中学校事務職員研修の推進にかかる連絡会」で協議・検討を重ねていく予定です。

事務研究会としても、研修実施の一端を担うとともに、各年代の事務職員が自発的かつ積極的な研究を推進できる環境づくりを行うことが必要だと考えています。

今後は共同学校事務室への移行により生まれてくる新たな可能性や課題についても向き合い、歩み続けていきたいと考えています。

4. 指導助言

動画に登場した田中君は相談ただけでしょうか。行動から学ぶことはいくつもあり、いろいろなヒントを得て行動していました。困ったことを諦めて放っておくのではなく、何ができるか考え、こうしてみようとアクションを起こすことが大切です。全部を自分で解決できなくても、解決できる人とのつながりが、解決につながります。知っている人に相談することで解決できるための道筋ができます。「アジャイル思考」(まずはやってみる・失敗したらやり直す)がいいなと思います。学校現場の中でこの「アジャイル思考」を持つことが大切です。

また、つながりは自ら広げるものです。自然発生的に広がるわけではないので、どうやって動くかが大切です。例えば、私は今 PTA の会長をしているのですが、PTA 会長を担っている中でも、自分の町内会だけでなく、隣町の町内会にも自らアプローチします。前任から引き継いだつながりもありますが、持続し育むためには、自ら行動することでつながりを大切にしている意思表示をすることが必要です。

解決するための大きな力として、思いを口にすることもつながりになります。自分だけで達成できないことでも、人と一緒にすることで思いを形にすることができます。



共同実施と研究会は相乗効果を発揮しながらやっているということですが、どこの市町でも共同実施が本当に機能しているか振り返っていただきたいです。ミスをチェックするだけの組織になっていませんか。

東近江市さんのこの取り組みは、動画作成などを通して、教員の協力を得ながら楽しくやっていることが大きいです。プロセスがわくわくしますし、研究会も共同実施もこのわくわくが大事です。そしてお互いに育て合う・高め合う組織になってもらいたいです。そのためにリーダーには若い人も意見を出しやすいあたたかい組織作りを進めてもらいたいです。

そして、共同実施組織をいかに戦略的に生かしていくかが大切です。個人でアプローチするのは難しいけれど、チームとして校長会や教頭会とつながり、事務職員だけで実現させることができなくても他の理解を得て物事を成し遂げていけると思います。

アドバイザーをしている市では共同学校事務室と教頭会で合同研修を行いました。一緒に対話を繰り返しながら学校の課題解決を考えられたことが良かったです。共同実施組織を軸にし

て校長会や教頭会と連携してほしいです。

最後に、分科会の始めにでてきた「教育を支援する」という言葉に疑問をもちました。外にいる(支援をする)立場ではなく、教育を生み出す立場として事務職員はあると思います。そして子どもたちの幸せを生み出す、創造する立場で学校の中で輝いてほしいです。

学校の中の困りごとを、他人事から自分事へすることの意識が大切だと改めて実感しました。プレゼンの中のことはひとつひとつハードルが高くなく、できることのように思います。まずはできることをやってみてください。一子どもの豊かな学びと育ちへの一歩を踏み出そう!—

5. おわりに

子どもたちの幸せを創造するというキーワードは、東近江市や参加者のみなさんへのエールであり今後の道しるべとなりました。

新型コロナウイルスの影響で、いろいろな事が制限され、人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。GIGA スクール構想の実現に向けた整備・活用による人と情報のつながりなどの重要性に気づきました。

日々変化する社会や地域の中の学校では、今後学校事務職員に求められるものも同じではありません。ただ、学校事務職員には悩みを共有する仲間や教育資源を活用できる能力があります。これからも「学校事務職員のつなぐ役目とつながる可能性」をテーマに学校のひとつの核として子どもたちのよりよい教育環境を探求していきます。

第2分科会

研究テーマ

共同学校事務室設置に向けての学校事務体制の見直しおよび研修制度の推進

～業務改善からみえた人材育成～

愛知郡小中学校教育研究会事務部会

活かそう！町の共同実施を郡へ

～つぎの一步を踏み出すために～

犬上郡小中学校教育研究会事務部会



提案者 山田 海里 (秦荘東小学校)

馬場 美和子 (秦荘西小学校)

岩瀧 裕一 (愛知川小学校)

荒木 零司 (愛知川東小学校)

千原 朝子 (秦荘中学校)

一圓 瑞季 (愛知中学校)

寺田 莉里花 (多賀小学校)

本田 慎吾 (大滝小学校)

松本 清爾 (甲良東小学校)

大橋 拓也 (豊日中学校)

助言者 愛犬地区教育振興協議会会長

(甲良町教育委員会教育長) 青山 繁 様

記録者 藤川 亮 (笠縫小学校)

中村 悠人 (新堂中学校)

1 はじめに

愛知郡と犬上郡は湖東地域に位置し、琵琶湖からは少し離れた田園地帯で日々子どもたちと自然を感じながら学校生活を送っています。

愛知郡愛荘町は小学校4校、中学校2校の計6校。犬上郡は多賀町・甲良町・豊郷町の3町から成り立っており、小学校6校、中学校3校の計9校。事務職員は各校1人ずつ配置されています。

愛知郡と犬上郡とは隣接する小規模な町の集まりですので、私たちは合わせて「愛犬(あいけん)」と呼んでいます。普段は町での活動が中心ですが、年に一度は夏季合同研修会を開催し、情報交換をしながら協力して研究を深めています。

愛知郡の発表は、従来の活動とともに業務改善に重点を置いた研究の取り組みについてご紹介します。

犬上郡の発表は、3つの町がそれぞれ3人の事務職員で共同実施を行っている現状から、「3」をキーワードに、子どもたちのために何ができるかを若手事務職員たちが話し合いながら考えていきます。

2 愛犬地区の取り組み

普段は町ごとに取り組みを行っていますが、一緒に取り組めることは何かと考え、平成 25 年度より愛知・犬上郡の教職員へ向けた初任者研修において「給与等に関する学校事務の説明」を行っています。

毎年説明する内容を町で分担し、全員でプレ発表や修正・検討を行い、当日より良い説明ができるように臨んできました。

残念ながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により集合形式での説明会が難しく、学校や各町単位での形式となりましたが、少人数でも説明はスムーズに行えました。これは毎年全員で取り組みを積み重ねてきた成果であると実感しています。

【初任者研修における学校事務説明会】の内容

① 給与関係

教員からも給与明細の見方がわからないという声は多く、初任者には明細の見方を特に丁寧に説明しています。自身で申請しないと支給されない手当があること、事実発生日から 15 日以内に書類の提出が必要なことを繰り返し説明することで、手続きの重要性を理解してもらうようにしています。

それぞれのライフステージにおいて、どのような手続きが必要になってくるかも説明し、該当時は事務職員にも一報をいただけるようお願いしています。

② 福利厚生

共済組合や互助会の事業説明と各種給付金をはじめ、年金や財形貯蓄の手続きも紹介しています。

③ 税金

年末調整に必要な捨ててしまいがちな書類の保管等を説明しています。

④ 旅費

出張から旅費請求までの流れや領収書の保管を説明しています。

⑤ 服務

よく質問を受ける出勤簿の押印方法について、簡単な事例を参考に説明をしています。

⑥ 予算

予算要求の流れを説明し、欲しいものがすぐに購入できないことを説明します。またクイズ形式を取り入れ、立て替え払いの場合は公費での支払いができないことも理解してもらいます。

⑦ 学校徴収金

学校徴収金とはどういうものか、取扱には注意が必要であることを説明しています。

⑧ マナー

主に学校へかかってくる電話の取次ぎについて、作成した動画を使用して、よい例・悪い例を取り上げ説明します。



3 研修会を通じて

「私たち事務職員は、日頃から先生方とは良い関係を築き、ともにより良い学校教育を実践できる『チーム』でありたいと願っています」というメッセージで締めくくり、我々事務職員の思いを伝えて

研修会を終了します。

実際に、この研修会を実施した後は新任教員と事務職員の距離が縮まり、近況を聞かせてもらうことで手当の手続きがスムーズに行えたことや、施設や教材の破損をすぐに知らせてもらうことで修繕の手続きが迅速に行えたというような成果も出てきています。

毎年参加者には事後アンケートの記入をしてもらい、そこで出た課題については後日検討し、次年度の説明会には反映できるようにしています。特に説明会の実施時期については、タイムスケジュールの関係で毎年2月にしか実施できておらず、新任教員からも「もっと早い段階で知りたかった」という声が多く寄せられており、開催時期を早めることができないか関係機関と連携を取りながら改善への道を模索しています。また、資料についても毎年見直しを行い、給与改定等や事務全般の変更点について調べ、修正を行うことで事務職員自身の研修にも繋がっていると確信しています。

4 愛荘町の取り組み

愛荘町小中学校事務研究会は小学校4校、中学校2校の計6校。事務職員は主任事務主査2名、事務主査1名、事務主事3名の計6名と小規模な組織です。そのため、給与班と学校支援班の2グループを組織していますが、研究活動を進める際は全員で協力し連携を取り合いながら実施しています。

教育委員会との連携も密で結束が強く、フットワークが軽く、素早く新規採用者の支援や課題解決に取り組めるのは小規模ならではの強みです。この強みを活かし、愛荘町の教育がより良くなるように研究や活動の推進を図っています。

現在は共同実施推進委員会を毎月実施できていますが、過去には新型コロナウイルス感染症の影響で開催することができない時期もありました。後に紹介する認定審査会の電子化などは、そのような時期に工夫した成果です。

共同実施推進委員会は、事務職員6名と教育委員会教育振興課の担当者として集まり毎月開催しています。活動は愛荘町役場の会計室や給食センターにも認知されており、過去には教育長や関係部署の担当者、給食センター所長・担当者の出席により、研究や課題の共有と解決を図る実りのある場となっています。活動は給与班と学校事務支援班の2つのグループの構成で、給与班は「手当認定審査会」と「愛知郡・犬上郡の教員初任者研修」について、学校事務支援班は「財務マニュアルの作成」「備品システムの共有化」「業務改善」「共同学校事務室」「他郡市との研修」「関係機関との連携」について取組を行っています。

(1) 手当認定審査会

以前は毎月行われる事務部会の場で手当の認定審査を行っていましたが、新型コロナウイルスの影響で集まった部会が困難となり、その打開策として、オンラインでの認定審査が行われました。オンラインにより部会の開催が無い時でも手当確認ができるようになり、例えば教員の急な引越いや、扶養親族の追加など急な手当の追加でも、その都度認定審査を行うことで、給与報告までに余裕を持って手当の入力ができます。また、部会の場で認定審査を行う必要がなくなるので、会議時間の削減になり働き方改革にも繋がっています。

実際の画面では必要事項を入力し、担当者を選択して申請をします。届出や認定簿はスキャンしたデータを添付しています。認定審査時は添付書類を確認し、決裁ボタンを押すだけです。コメント

機能もあるので、不備があった場合には申請者へ通知することもできます。

愛荘町の事務職員全員が閲覧できる共有フォルダに、マニュアルも用意されており、実際の画面や詳しい説明があり、初めての方でもすぐに認定審査を行うことができます。

しかし、オンラインならではのデメリットもいくつかあり、1つ目はセキュリティ面です。手当書類をスキャンし、データのやり取りを行うので、PCのセキュリティが脆弱であったり、認定審査後のデータをそのままに残していると、データ流出が起こる可能性があります。

2つ目は手当内容が珍しいケースの場合、部会のように相談できない点です。

前者は、データをパスワードで保護し、認定審査後はデータを削除することで対応できます。

後者は、コメント機能では対面で話すより相談しづらく、オンラインは手段の一つと考えるか、今後何らかの方法を考えていけたらと思います。

このようにオンラインでの認定審査はメリットとともにデメリットが存在し、一概にオンライン化が正しいとはまだ断言できませんが、今後改良を続け、より丁寧に、よりスムーズになることを目指し、努力していきたいと思います。

(2) 財務マニュアルの作成

愛荘町の財務における款項目は細分化されており作成手順も異なるため証票作成が難しく、また愛荘町役場は秦荘庁舎と愛知川庁舎があり、証票が会計室に届くまでに時間がかかるため、作成時のミスにより遅延が生じると、最悪、業者に請求書の再発行をいただく事態におちいることもあります。また、支払日間近の請求書が役場から学校に届くこともあり、証票作成時の1つのミスが勤務時間におけるロスとなります。そのロスを少しでも減らせないものかと考えたのが、マニュアルの作成のきっかけでした。

マニュアルを参考にミスなく処理することができれば、業者への請求書の再発行や期日間近で持ち回ること減り、強いては働き方改革にも繋がります。マニュアルを作成することは時間を要することですが、証票作成の知識も増え、見直すことができ、ミスを未然に防ぐことができます。

マニュアルではそれぞれのPDFの例に移るように仕組みされており、すべての項目において、戸惑いなく証票作成の手助けができるように作成しました。

(3) 備品システムの共有化

愛荘町では共有フォルダ内で備品システムを共有化しており、どの学校にどんな備品が配備されているか見ることができるようになっています。

教科書改訂により必要となる学校備品は、購入要求をするも使用頻度が少ないと判断され購入が難しくても、授業は実施しなければなりません。そんな時に備品システムを活用することで、必要な備品を所有している学校が分かり、単元の期間お借りすることができます。

備品を共有化し、学校間で貸し借りすることで、各校の予算の無駄を省き、有効活用することができています。

(4) 業務改善

愛荘町には多岐にわたる町に関する仕事があるため、勤務時間の大半はその仕事に費やされ、初任者は研修への参加が非常に困難になっています。

現在、愛荘町の6校中、半分の学校で経験年数10年未満の事務職員がいるということになります。本来であれば「職階に応じた人材育成指標」を基に、様々な能力を身につけるため、研修を積んでいかなければならないのですが、町内での仕事が多く研修の場を持つことができていません。愛荘町に配属されることで研修に参加できないという現状を解決しなければなりません。

以前より町の教育委員会には業務軽減を要望し続けており、一昨年には予算システムの変更は難しいとの返答でしたが、昨年度には教育委員会の担当者から「なんとか軽減をできるよう検討する」という返答をいただきました。

今年度は近隣や同規模の市町の予算処理において、教育委員会へ業務量の差を明示しました。担当者は結果を真摯に受け入れてくださり、教育委員会内でも協議する方向性を示してくださいました。また校長会・教頭会でも、愛荘町の学校事務職員の業務量が他の市町と比べて多いということを知りいただき、校内での業務軽減を図っていただきました。また、業務量を知っていただいたことで、学校評議員の謝礼支払処理や決算額入力を教育委員会ですべていただき、業務を少しでもスムーズに行えるよう配慮いただくことが増えました。

今後も業務改善の要望を続け、「職階に応じた人材育成指標」に示されているそれぞれの職階に必要な能力を身につけられるよう研修の時間をもちたいと思っています。

(5) 共同学校事務室

共同学校事務室の設置・運営には、環境整備と法的整備が必要とされます。

①環境整備

2019年度：愛知中学校の改修工事に伴い、新校舎に共同学校事務室の設置が決定

2020年度：新校舎工程会議で、共同学校事務室の設計図と備品の配置および数量の確認

教育委員会から次年度に要求書を提出するよう指示

2021年度：他市町の共同学校事務室の配備備品を確認

次年度予算ヒアリングの場で必要な備品を要望

2022年度：1月に備品が納品予定

②法的整備面

法的業務は事務職員には不慣れな仕事のため、まず周囲の市町の共同学校事務室を設置されている学校、設置予定の学校にお話を伺いました。その中で共同学校事務室の設置には、「要綱」・「要領」と「部屋の活用方法の明示」が必要であり、共同実施推進委員会で要綱案を作成し教育委員会へ提出、それを受けた教育委員会が要領案を作成するということが分かりました。そこで昨年度、愛荘町の教育委員会に共同学校事務室の設置に伴い、共同実施加配事務職員を一名配属していただくように要望をあげました。同時に、早速『愛荘町立学校事務共同実施推進組織運営要綱(案)』を作成し、事務室の活用方法についても協議しました。

今年度は『組織運営要綱(案)』を教育委員会に提出し、愛荘町教育委員会では要領の作成に取り掛かってくださっています。来年度からの運用となるため、今年度はこれから共同学校事務室で行う具体的な計画を作成していく予定です。

共同学校事務室の設置により、愛荘町の児童・生徒や教職員の業務にどのような効果を発揮していけるか期待する反面、業務改善と逆の道を歩まないようにしなければという緊張もあり、身を引き締めて業務にあたっていきたいと思います。

(6) 他都市との研修会

愛荘町では初任者に対する研修の機会が少ないため、少しでもスキルアップしてほしいという思いから、東近江市の共同実施組織に相談し、令和2年度から同市の研修会に参加させていただくこととなりました。

研修では、経験年数の浅い事務職員にとっては同じ職の先輩が講師であり、分かりやすい講演により大きな刺激となり、また経験年数の長い事務職員にとっては仕事への姿勢を見直す機会となりました。そして、研修の重要性を今まで以上に実感したことから、再度相談した時に紹介を受けた、東近江市での研修に全員で参加しました。

この研修会には愛荘町以外の東近江市近隣の学校も参加があり、知識はもちろんのこと、地域を越えた研修会に参加できたことで、他の市町の事務職員と交流ができたことが何よりの成果だと感じています。

また、以前に犬上郡と合同で先進地研修を計画し、竜王町共同実施組織から業務改善についての研修を受けました。愛知郡や犬上郡と同規模である竜王町の実際の取り組みは参考となり、すぐに実践できる取り組みもありました。先程の「財務マニュアル」もこの研修を受けて活動を進めることができました。

コロナ禍の現在、以前のように参集型の研修会への参加や、他市町との交流も難しい事態ですが、研修を考へることや自己研鑽のための研修の伝達など、今できることを考へていかなければなりません。今後の研修制度を考へていくうえで、難しいとはいえ広域での交流を強め、研修体制を整へることも出来ることの一つだと考へます。学校現場でも環境整備に関わっている ICT も積極的に活用して研修を実践する時代となりました。他の市町と差が生じないような方法を考へ、経験年数にかかわらず研修が受けられる機会を設けることを、共同実施組織ならではの広い視野で今後も考へていきたいです。

(7) 関係機関との連携

愛荘町では学校運営を円滑にするために、愛荘町教育委員会事務局はもちろんのこと、役場会計室、役場経営戦略課、給食センターなど様々な機関と連携を取り、日々業務に励んでいます。

その中から代表的なものをいくつか紹介します。

① 共同実施推進委員会

定例開催時は教育委員会担当者と各学校事務職員で実施しますが、必要に応じて他の課や施設から参加していただくこともあります。

② 日々の「報・連・相」

各種支払業務や給食費における人数報告など、連絡は毎日のように取り合い、問題や相談があった際は各課や給食センターと共同で作業に当たります。

③ 予算説明会・予算編成

愛荘町では「財務マニュアル」の項にもあるように、学校予算のほとんどが各学校の裁量に委ねられており、学校事務職員には町の財政状況や方針の熟知したうえで予算編成および執行に臨まなくてはなりません。そのため、役場の若手職員や所属異動職員を対象とする予算説明会には毎年参加し、状況を把握するよう努めています。

また、学校の運営および教育活動の充実のための予算が各学校に割り振られ、そのほとんどの執行・管理・編成については学校事務職員が担当します。

その業務の中でも、今回は「予算編成」の部分を詳しく紹介したいと思います。

予算編成とは、次年度に執行する予算を組むことを言います。そのため、いくつかの段階に分けて業務を行います。

まずは、次年度の計画をもとに予算の大枠を作っていきます。基本的には今年度予算と同等に作成をしますが、人件費等全体の学級数によって変動する項目もあり、次年度の推計なども参考に予算を組んでいきます。備品等については、校内でアンケートを取り、校内で審査後に予算に入れ込みます。これが予算の大枠の作成になります。

次に、完成した予算資料を持参し、教育委員会とのヒアリングに臨みます。このヒアリングには、教育委員会からは教育次長と担当者が、学校からは教頭と事務職員が出席します。ここが最も大変で、予算の根拠を明確に説明できるよう準備をしていないと、予算は付けてもらえません。そのため、見積もり等の根拠資料を沢山用意して臨むようにしています。また、教頭とも情報を共有し、重要な予算項目については粘り強い交渉のため打ち合わせも入念に行うようにしています。

その後、教育委員会から町財政部局、副町長、および町長への予算要求を行い、その結果を以て予算が確定します。

学校運営および事務業務は、自分一人の力だけでなく多くの関係者との連携、協力があって成り立つものだと思います。今後もこの「つながり」を大切に、日々業務にあたっていきたいと思っています。

5 犬上郡の発表

犬上郡の研究テーマは、『活かそう!町の共同実施を郡へ』〜つぎの一步を踏み出すために〜です。犬上郡内には、甲良町・豊郷町・多賀町の3つの町があります。

犬上郡として、ひとつの共同実施組織を設置することができないため、それぞれの町ごとに3校・3人の事務職員で共同実施をおこなっています。

少人数ながらも一人一人が得意な分野を生かし、学校事務の適正化と効率化を各町進めてきました。

本日は、郡内の4人の若手事務職員が集まりそれぞれの町独自の取り組む内容を情報交換することで、犬上郡として「共同学校事務室を設置する」という同じ目標に向かって何ができるかを考えていこうとしています。

【今回登場する4人の事務職員】

・甲良町立甲良東小学校 松本さん

- ・豊郷町立豊日中学校 大橋さん
- ・多賀町立多賀小学校 寺田さん
- ・多賀町立大滝小学校 本田さん

・4人の情報交換のようす(以下、敬称略)

(1)異動をして大変だったこと

【本田】前任は比較的大規模な学校でしたが、小規模な学校に異動したため、校務分掌の多さに戸惑いました。

学校や町の事など、前任校なら校内にもう一人いてくれたため、すぐに聞きたい事が聞けたけれど、今はすぐに聞くことは出来ません。

中でも、学校の先生方から頼られた時にすぐに答えられなかった事がつらかったですね。

【寺田】学校規模と市町ごとの事務手続きの違いに困惑しました。

教育委員会からの支援体制も整っていないので、前任者や隣の事務職員に聞いたりしながら、自分一人で仕事をしなければならないのが大変でした。

【松本】近江八幡市では諸手当については認定審査会で認定してもらっていましたが、甲良町に異動してからは審査会はなく、共同実施で相談することになっていました。そのため、知らないこともあり、漏れなくできているか心配になります。

【大橋】豊郷町は、学校教育課長を委員長に4人で認定審査をしています。自分自身の勉強にはなりますが、審査する側になったことへの不安があります。

【松本】以前は見てもらっていましたが、自分がチェックする側になると、もし見落としがあったらどうしようという不安な気持ちになりますよね。また、学校に配分されている予算の多さに驚くと共に、予算の仕組みや執行にいろんな方法があって困りました。

【大橋】学校を異動するだけでも大変だけれど、市町が変わると財務関係のやり方が全く違い、何かから手を付けていいのかわからず悩みました。他では、豊郷町は小規模なので、取り組みがなかなか前に進められていません。共同実施を月1回開催していますが、実施要綱や規則等も1つずつしか制定していけないのが現状です。

【寺田】個人的には、財務関係の細かいマニュアルがない事が一番困りました。

【本田】市町によって財務システムが違うため、初めて見る画面もあって戸惑いますよね。町独自の事務処理があるため、マニュアルを見ても具体的な方法については町内の事務職員に聞かなくてはなりませんでした。

【松本】甲良町の場合、月に2回共同実施をしています、そのうち1回は財務関係のことばかり話しています。マニュアル通りにいかないこともあり、教育委員会担当者と支払いの方法や添付書類の事を確認しています。

しかし、小さい町だからこそ教育委員会との距離が近く連携がしやすく、事務職員の声が届きやすいこともあるため、新しい事を始めるのが早いという利点もありますね。

(2)新型コロナウイルス対応での取組

【大橋】まだまだ新型コロナウイルスは終息していません。学校も対応に慣れてきたけれど、最初の頃は大変でした。消毒液を始め、必要な物が無くて困っていました。しばらくして補助金がついて、

3校で情報を交換し、必要な物を選んで購入できるようになりました。

豊郷町は10万円以上のものは共同実施で集約し、教育委員会に提出して教育委員会が契約するけれど、大きな市町と違い同じ物をたくさん買わないので安く購入できませんでした。もったいないと感じましたね。

【本田】多賀町は品物・品番が同じものがあつたため、共同実施で担当を決めて担当者が3校分をまとめて見積りから発注までできるようになりました。

【寺田】小さい町なので小回りが効きますよね。必要なものが手に入って良かったです。

【本田】現在も補助金で感染拡大防止のための物品などを買っているけれど、いつまで続くのでしょうかね。

【松本】甲良町も必要な物を学校間で情報交換して購入しています。どこの町も一緒ですね。

今は少し落ち着いてきてますが、今年は夏の感染拡大が恐ろしかったです。滋賀県でも感染者数が毎日2千人を超えており、ニュースでも過去最高と繰り返し報道されていたので、心配でした。

自身の学校も濃厚接触者や陽性者の欠席が急に増えて、学級閉鎖を繰り返し、最終的に学校閉鎖になりました。特に給食の報告が難しく、新型コロナウイルスに振り回されたという感じてました。

【大橋】現在も学校内で感染レベルに応じた対応に苦慮していますが、学級閉鎖や給食等関係機関との連携や、イベントベースサーベイランス事業実施等の対応ができてきたことは今までと違いますよね。

【寺田】地域レベルに応じた対応は大変ですものね。

新型コロナウイルスのこともそうですけれど、事務職員自身が突然に休まなくてはならない状態になった時はどうしたらいいと思いますか。

【大橋】豊郷町は給与システム・旅費システム・町の財務システムのID・パスワードの情報と締め切りがある仕事の一覧表を作成して「仕事の見える化」をしています。

兼務の辞令が出ており、休んでいる事務職員の代わりに他校の事務職員が該当校へ出向き、急ぎの仕事をカバーすることにしてますよ。

【寺田】事務職員が休んだ場合は加配がない分、他校の事務職員が動くことになりますよね。

【松本】甲良町も同様です。締め切りのある支払い処理は教育委員会ですてもらうことにしたけれど、給与関係や校内の事務処理は頼めないため、他校の事務職員に頼むことになります。

(3) 共同学校事務室設置において

【本田】こうして情報交換をして改めて、各市町に共同学校事務室が設置され、加配事務職員が配置される必要性を感じました。

これから教育委員会に働きかけ、共同学校事務室を設置されている他市町との交流をし、その実践内容を受けて、共同学校事務室を設置できるよう教育委員会と一緒に動いていきたいと思えます。

【大橋】3町ともまず部屋を探すことから始め、パソコンやプリンター、通信回線の準備を始めています。同時に、町の要綱や規則の制定に向けて教育委員会に働きかけているところです。

【松本】甲良町もそうですが、共同学校事務室設置に向けて事務職員だけでは動けない、進めないと思っています。小さい町で一番困ることは教育委員会の担当者が異動してしまった時です。

1年かけて話を詰めて動いていたとしても、担当者が代われば引き継ぎが出来ておらず、また一か

ら説明をして進めなくてはいけないこともあります。

「1歩進んで2歩下がる」ことは悲しいけれど、よくある話です。

今回はそうならないように各町とも設置に向けて教育委員会を巻き込んで動いています。

甲良町は要綱等の整備は出来ていますので、これから開設準備を進めて令和5年度に共同学校事務室を設置することになっています。

【大橋】豊郷町も今年は設置に向けて部屋の確保や備品面を充実していき、要綱等を教育委員会へ働きかけ設置できるようにしていきます。

【寺田】多賀町も共同実施運営要綱はできていて、数年前から活動が活発になってきています。

今年は共同実施に教育委員会の担当者も参加したいと申し出があり、教育委員会と更なる連携を目指して共同学校事務室の設置に向けて動いています。

【本田】こうして3町の共同実施の取り組みを情報交換することや、今後の展望を共有することで、充実させていくことができると思います。さらには、研究テーマである「町の共同実施を郡へ」にもつなげていけると思います。

現段階では各町で共同実施を進めていて、どうやって次の一歩へ・郡へつなげていくかを考えています。今後郡で共同実施の取り組みを進めることができれば、郡内の学校事務機能のさらなる強化や、事務職員の育成や資質の向上にも期待できると思います。

それが共同学校事務室の設置へ向けた大きな一歩にもなり、事務職員同士の協働を通じて知識やアイデアを共有し、個々が変化に対応する力を身につけ、より効果的に学校運営に参画することができると思います。

そして、各町の学校事務業務の適正化と効率化を進めていくことで、校内では教員が児童生徒と向き合う時間の確保を図ることができるため、学校の教育力・組織力の向上を目指すことができます。

私たちは、直接子どもたちと接することは少ないですが、こういった取り組みを通して「子どもたちの健やかな成長のため」に一歩を踏み出しました。

一人一人の事務職員が「すべての子どもの豊かな学びと育ち」のため、教育に関わるすべての人々とつながりあいながら、「事務をつかさどる」事務職員として学校教育と学校運営の一翼を担っていきたいと考えています。

6 指導助言

愛犬地区教育振興協議会会長

(甲良町教育委員会教育長)

青山 繁 先生より

(1)はじめに

自身が教員のときは事務職員の仕事を深く知ることはなかったのですが、教頭の立場になってから話をする機会が増え、多種多様な仕事をされていることに気付き、大変な業務をされていることが分かりました。

財務管理をはじめ、施設設備や教材管理、給与、旅費、就学援助、学校徴収金、文書管理、福利厚生、電話対応、来客対応、そして職員室で児童生徒とかかわってもらうこともあり、本当に激務を

こなしておられることに感謝と尊敬の念を持ちました。

「大人が変われば子供も変わる」と言われますが、「事務職員が変われば職員室が変わる、学校が変わる」と思うほどに学校にとって欠くことのできない大切な先生です。

近年では GIGA スクール構想、新型コロナウイルス感染症への対応など学校現場の状況は大きく変化しています。国や県の方針に遅れることなく対応するには学校事務職員の情報や協力が必要になってきますが、それらの対応にも的確にいただき大変助かっています。

(2) 分科会発表について

愛知郡も犬上郡も小さな町の強みをフルに活用して教育委員会と win-win の関係であることが分かります。小さな町であるがゆえに教育委員会の職員も少人数で、しかも教育現場を知らない行政職員がほとんどです。どうしても事務職員の先生に頼ってしまうことも多く、負担をかけていることにとっても心苦しく思っています。

① 愛知郡の発表について

オンラインによる認定審査の実施、財務マニュアルの作成、備品システムの共有化といった、現状の学校の事務体制を見直したいいくつかの事例が紹介されました。

業務改善に向けて教育委員会に要望し、校長会・教頭会で検討され業務改善ができたことの発表もありました。

人材育成について、初任者や経験年数の浅い職員の割合が高いことから、研修制度確立のための情報収集や関係機関との連携を図るなどして、郡市との交流をつなげてもらえる様子もありました。他市町の取組を学ぶことは大切であり、とても有効な手立てであると思います。

また、学校の改築の設計段階で共同学校事務室が計画されているということで、これまでの事務職員の方々の働きかけの成果であると思います。

② 犬上郡の発表について

市町をまたいでの異動、複数配置校から一人配置校になった不安、新型コロナウイルス感染症対応の大変さから、学校事務業務の適正化と効率化や平準化、また事務職員の先生の育成や資質向上のために共同学校事務室の必要性を実感し、設置に向けて取り組んでおられる様子が分かりました。

私事になりますが、甲良町では3人の事務職員の先生で共同実施を公民館の一室で行ってもらったときがあり、その場に私も邪魔をして「元気ですか?」「困っていることはないですか?」と声をかけるようにしています。こうしたことができるのも小さな町のメリットかなと思います。

私が声をかけると、3人の事務職員の先生はこの時とばかりにそれぞれの思いを次々にお話ししてくださいます。校長先生や教頭先生と違った視点で学校の状況を話してくださるので、私も勉強になります。中には返答に困ることもありますが、3人の事務職員の先生は私にとって頼もしい人材です。共同実施の場では、3人の事務職員の先生、教育委員会担当者が直近の課題について協議し、改善策を考えたり、財務処理について確認をしています。その場で「3校とも必要」と言われると、屈託のない意見や必要なものは要るのですから何とかせねばと思います。これも小さな町のメリットだと思います。

(3) おわりに

文科省は「学校組織における唯一の総務・財務等に通じる専門職であること」「学校の事務が複雑化、多様化していることもあって、より権限と責任を持って学校事務を処理すること」「学校におけるマネジメント機能を十分に発揮するため、より主体的・積極的に公務運営に参画すること」などこれからの事務職員の方々に大いに期待をしています。

「子供たちへの指導以外はすべて行政の仕事」であり、その業務は非常に多岐にわたっていますが、安心して学校運営を任せられる、信頼される、自らが主体的に取り組み学校運営に参画していく事務職員を目指してほしいと思います。

これから共同学校事務室の設置や滋賀県教育委員会が策定した「滋賀県公立小中義務教育学校事務職員の職階に応じた人材育成指標」に基づき人材育成を進めていただきたいが、無理のないようにと思っています。

時代の流れに取り残されることのないよう各町の教育委員会と一体になって一つずつ課題を解決して行ってほしいと思います。

1人1人の学校事務職員の先生がすべての子どもの豊かな学びと育ちのため、学校事務という職にやりがいを見つけ、覚悟と誇りを持ち、学校事務職員として学校運営の一翼を担ってほしいと思います。

7. おわりに

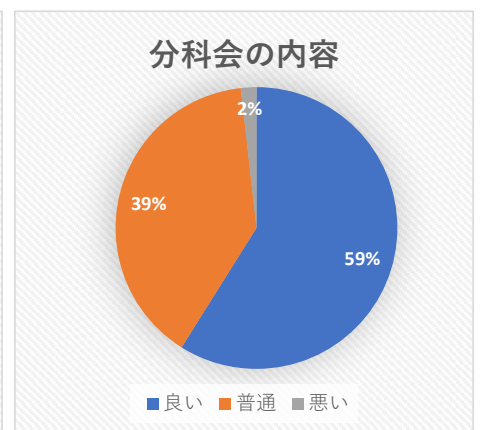
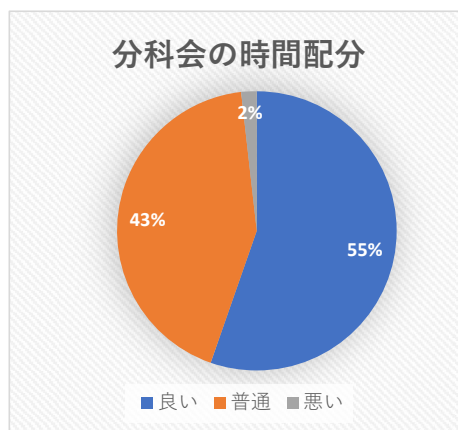
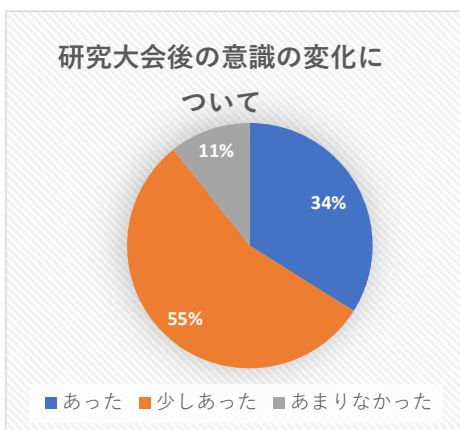
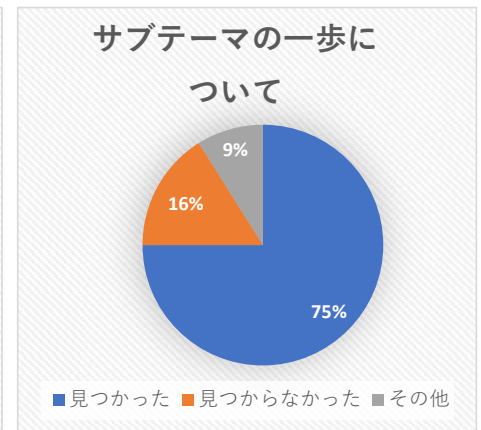
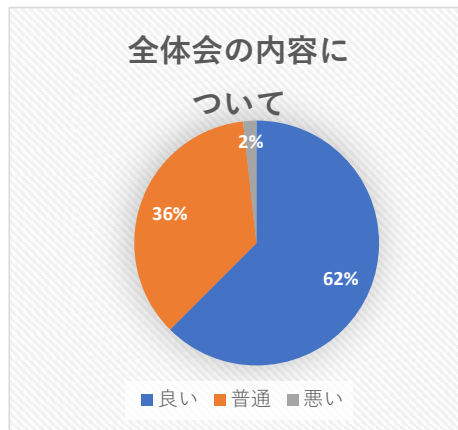
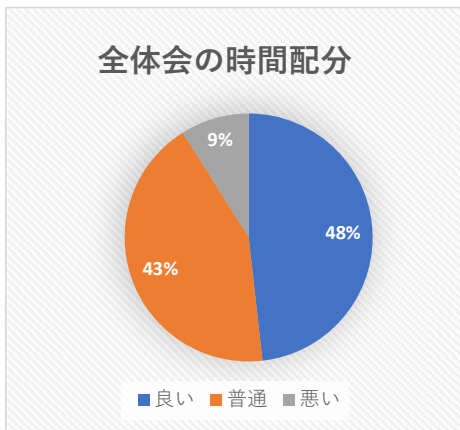
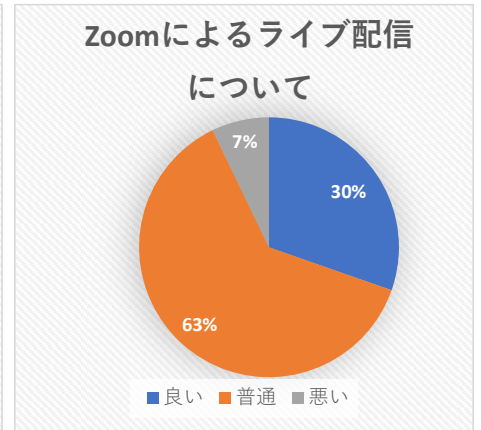
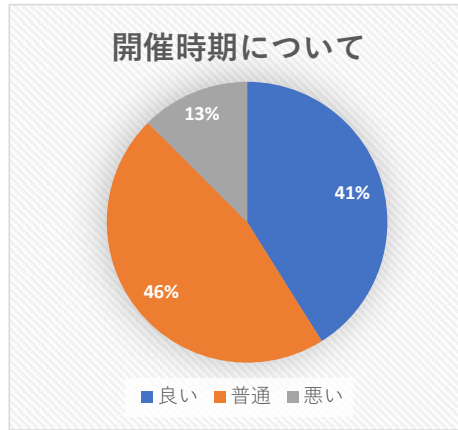
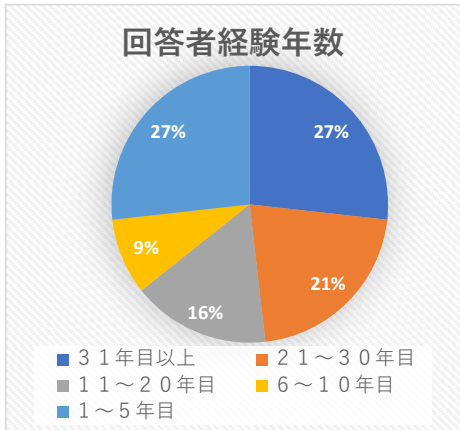
指導助言にて「学校組織における唯一の総務・財務に通じる専門職」と言われていますが、学校事務職員は採用時は全くと言っていいほどの素人です。先輩事務職員や教育委員会、管理職からのご指導、様々な失敗を経験し、必死に業務をしています。助言でのねぎらいと励ましの言葉に負けないよう、専門職と言われて恥じない事務職員を目指したいと思います。

今回の発表は、日々の取り組みや現状の報告となりました。愛知郡では、密を避けるため、オンラインで認定審査会を行うなどの工夫をし、会議が中止にならないようにしている様子などを、また、犬上郡の3町は、それぞれ3校3人での少人数のメリット、フットワークの軽さを活かし、教育委員会と連携して、共同学校事務室設置に向けての取り組みを発表しました。そして、愛知郡と犬上郡は毎年研修会の実施など、以前から交流がありましたが、近年はさらに情報交換を密にし、協力しながら研究を深めているところです。今後も得意分野を活かし、積極的に校務運営と教育支援に参画できるよう、取り組み続けたいと思います。さらに、活動を続ける中で、事務職員一人一人の意識改革を図り、お互いを高めあいながら「すべての子どもの豊かな学びと育ち」のため、日々邁進したいと思います。

第51回滋事研研究大会アンケート 集計結果報告

本アンケート結果は、研究大会参加者の満足度、感想を把握することで、今後の研究大会運営の参考にさせていただきます。

感想は一部抜粋しています。また、()内の数字は同一意見の数です。



●研究大会のサブテーマは「あっ!これならワタシ、できてるかも!?

～子どもの豊かな学びと育ちへの一歩を見つけよう～」でしたが一歩はなにか見つかりましたか?の質問に対して「見つかった」、「その他」と回答された方にお聞きします。

見つかったことについて教えてください。

(44件の回答)

- ・廣田様のご講演の中で、課題解決に向けての方法や考え方を学ぶことができました。
- ・ワクワクする気持ちとプロセスも楽しんでチャレンジしようと思います!
- ・管理職の方や先生方との連携次第で、もっと子どもたちと関われることに気づかされました。(4)
- ・事務職員が自ら発信して、職員室での対話を増やしたいです。困りごとを出し合う時間をつくるのが大事だと考えました。
- ・普段から小さな気づきを放置せず、人ごとにせず、自分からアクションを起こして少しずつ環境改善を図る(2)
- ・自ら考えていくことが学校現場をより良くするために大事だと後押しをいただいたので、まずはジブンゴトとして行動したいが、年功序列部分も強く発信しにくい立場なのも正直なところである。(7)
- ・実践事例を聞いて、サブテーマのとおりこれなら自分にもできるかもしれないと思いました。まずは本校の課題について考えてみたいと思います。(2)
- ・毎日職員や子どもたちと何気ないやり取りをしていますが、普段の業務のなかでさまざまな観点でカリキュラム・マネジメントを行っているのだと事例等を通してわかりました。

●印象に残った言葉、内容などがあれば教えてください。

(35件の回答)

- ・育て合い高め合う共同実施。風通しの良い共同実施。事務職員は教育を創造する。(4)
- ・関係機関との連携、視野を広げる、情報共有、何気ないやりとり。
- ・繋がりは自ら広げるもの。(3)
- ・「個別最適な」学び「協働的な学び」の2点が大切であると強く印象に残りました。
- ・他人事を自分事、視点を変える、視点を外に向ける。
- ・教育を支援するは、当事者になっていない。事務職員は周りからサポートするのではなく教育を創造する立場。
- ・子供たちの頑張りや優しさを発揮させる条件とは「自分への信頼」「保護者への信頼」「包まれ感(被受容感)」
- ・全員がジブンゴト化する。主体的に関わろうとすることが大事。(13)
- ・僕が目になろう 決めつけ諦め、恐れは解放して壊し、勇気を出して一歩を踏み出そう!

●全体会についてのご意見・ご感想等ご記入ください

(24件の回答)

- 実践発表、ご講演ともに、自分の気づきをカタチにしていくことの大切さを改めて感じました。
- 若い方が頑張っておられる姿がよかったです。(世代交代が進んでいるので、若手育成が課題の一つです。)
- 若手にとっては受け入れやすい内容だった。
- 学校事務職員の可能性を感じた。定型事務はドンドンDXで自動化して、人間味を出さないといけなところが学校事務職員の腕の見せどころだと感じた。
- 全体会の発表から、今後はカリキュラムマネジメントへの関わり方が前向きになれるような気がします。また甲賀市のお2人の実践についても意見交流で話題にさせていただき、どのキャリアにも響く内容だったように思います。
- 実践発表での若い方のしっかりした取り組みに刺激されました。

△実践例の学校など地域協働にかかわっている学校は小規模校である。大規模校それも小学校での実践があればどのようにかかわっているか、時間をどのように捻出しているか教えてほしい。
共同学校事務室(学校事務共同実施)で事務処理をするから業務が効率化されるというが、効率化がみえず逆に時間を余計にとられている。

△意見交流は時間管理ができておらず、中途半端に終わってしまい残念でした。ファシリテーター役というものが自分の中で十分にイメージできておらず、グループをうまくまとめられなかったので反省しています。

●参加した分科会についてのご意見・ご感想等ご記入ください

(31件の回答)

- 経験年数が浅い自分としても「そのシステム欲しい」と思うものもあり、とても魅力的なものが多かったです。動画紹介は1つでよくわかったのも、他は画像や行動や文章のみの紹介でもよかったです。
- 分科会の提案も素晴らしかったが、最後の廣田先生からの指導助言がすごく良いお話で聴けて良かった。(2)
- 「つなぐ」ことを私はまだまだ実践できていないと反省しました。東近江市さんの現在の完成されたシステムは職場の困り感一つ一つに真摯に向き合ってきた結果作られたものだと今回の研修で学びました。
- とても楽しく分かりやすい動画で、事務職員の繋がりによる効果がずっと頭に入りました。(4)
- 小規模は小規模での大変なことがある。少ないながらも、その利点を活かしておられると思いました。
- 他市の活動などを知る良い機会になりました。(2)

△どんなものを作ったのか、研究の成果として、紹介をしてほしかった。

△事務の効率化はどこもやっていること、もっと人づくりなど人として、社会人として、学校事務職員として何が「子ども」たちのためにできるのかテーマにしてほしかった。残念です。

研究大会を終えて

第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会

実行委員長 西村 智子

第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会の開催に際しましては、皆さまのご理解とご協力をいただき、また県内外より多くの方々にご参加いただき、無事に開催できましたことを実行委員一同、心よりお礼申し上げます。

長引く新型コロナウイルス感染症の防止対策として、今大会も昨年度に引き続きオンラインでの開催となりました。本来のような一堂に会しての研修の場は持つことができませんでしたが、各市町の会場にて活発な意見交流が行われ、学びを深めていただいたことと思います。

実行委員会では、学校事務職員の日常の業務のなかにある「気づき」から繋がる、学校運営への参画と役割、そしてその一歩先にある「可能性」について、参加者の皆様と一緒に考え、また周りの人と思いを交流することで、学んだことを明日から活かしてやってみようという活力を持って帰っていただけるような研究大会にしたいと考え取り組みました。全体会ではカリキュラム・マネジメントに主体的に関わることの意義を認識し、2つの実践事例を通して、育てたい子どもの姿を実現するためにどのように考え、行動するのかについて提案をしました。また、ご講演をいただきました廣田様には、実践事例からつながる今後の取り組みの可能性について、また子どもたちの豊かな学びと育ちを創造することをジブンゴト化するということなど、私たちが目標に向かって取り組むうえで必要なことや大切にすべきことについて、大変わかりやすくお話いただきました。

午後の分科会では2つの分科会が趣向を凝らした提案をしていただき、それぞれの市町の実践や抱える課題への取り組みなどから、参加者にとっても学びが多く、大変有意義な時間となりました。担当いただきました東近江市、愛知郡、犬上郡の皆様には厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、本研究大会の企画・運営にあたり、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の滋賀県公立小中学校事務研究協議会の益々の発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会実行委員

西村 智子(矢倉小学校)	野村 亮太(大宝西小学校)	青山 桃佳(栗東西中学校)
岩波 緑(笠縫東小学校)	河上 千代(小津小学校)	山田 絵里奈(守山南中学校)
福本 隼人(甲西中学校)	足立 ひなた(石部中学校)	藤田 佳代子(大野小学校)
橋口 勇喜(伴谷小学校)	角田 光優(甲南第二小学校)	
分科会担当実行委員		
緒方 孝次(市原小学校)	大橋 拓也(豊日中学校)	

專門部・事務局 活動報告

部会等の開催日等は、下記の通りです。

開催日	会議・事業名	会場	会議・事業内容
R4. 5.13	第1回研究部会	コミュニティセンターなかさと	今年度の研究部活動計画
7.8	第2回研究部会	Zoom	研究テーマの実証・考察
9.20	第3回研究部会	大津市立皇子山中学校	研究テーマの実証・考察 アンケート案について協議
12.12	第4回研究部会	大津市立堅田小学校	研究テーマの実証・考察 全事研滋賀大会について
R5.1.23	第5回研究部会	大津市立皇子山中学校	研究テーマの実証・考察 アンケート案について協議
3.10	第6回研究部会	大津市立堅田小学校	研究テーマの実証・考察 アンケート結果の分析

今年度の事業を終えて（今後の課題）

「キャリアステージ」や「マネジメント力」などの言葉が並び難しく感じるかもしれませんが、事務職員が関わることで学校組織力や地域との結びつきが強化された事例は多数あります。私たち事務職員も主体的に行動し、教職員と協働して教育活動の充実を図っていく必要があります。求められています。教育環境整備に携わる私たちは、コーディネーターとしての役割を自然と果たしていると考えます。服装などでもコーディネートと言いますが、決して着飾る必要はありません。学校規模、地域性などで条件は異なりますが、自分自身や学校の強みを活かしたコーディネートができるよう研究を進めていきたいと思えます。

「子どもも大人も」みんなが笑顔でいられ、その姿が輝く学校は素敵だと思いませんか。私たちには、そんな姿を描けるマネジメント力が秘められていると強く思っています。

「何のために」という目的意識を持ち、自分事として取り組めるよう、みなさんと思いを共有しながら、更に探求していきます。

今後の課題としては、アンケートを実施しましたが、市町の活動内容調査も同時に実施できなかったため、次年度以降実施し共同実施組織および共同学校事務室の研修体系や取り組みについて把握し、会員の皆様と情報共有を図っていきたく思います。

また、今回のアンケート結果は、令和7年度に開催される第57回全国公立小中学校事務研究大会滋賀大会の分科会発表における研究過程での貴重な資料になると捉えております。今後ともご協力をいただくことが多々あると思えますが、どうぞよろしくお願いいたします。

研 修 部

今年度の事業について

『学校のために事務職員として何が出来るか「課題解決」から「創造」できる事務職員を目指す～自ら学ぶ意欲を持ち、積極的に参加できる楽しく有意義な研修～』を方針として、今年度は次の3つの事業を行いました。

1 研修講座

カリキュラムマネジメントや業務改善の観点からの教育環境整備として、学校事務職員としてどのようなことを行うことができるのか。学校事務職員目線からの働き方改革やありたい教職員集団、特に時間送出について考える機会としました。

2 初任者研修会

仕事上の心構えや実務を中心に、制度内容の理解や根拠、仕事のつながりを意識させることを目的に行いました。意見交流会ではグループに分かれ、自己の仕事を振り返る、シーン・テーマ別で業務対応における注意点について議論する場を設け、事務職員同士の交流や意識向上を図りました。

3 研修資料をホームページ（滋事研 Web）にアップ

参考資料として、新任者向けに「学校事務の仕事」を、また全会員向けに「年末調整事務」、「年度末・年度当初事務」をホームページに掲載しました。初任者だけでなく、幅広い会員に活用していただくことができました。

開催日	会議・事業名	会 場	会議・事業内容
R4. 5.13	第1回 研修部会	コミュニティセンター なかさと	今年度の事業計画
6.16	第2回 研修部会	能登川コミュニティセンター	第1回初任者研修会 研修講座の企画
8.18	第1回 初任者研修会	ピアザ淡海	先輩事務職員に学ぶ テーマ別意見交流会
8.18	研修講座	ピアザ淡海	働き方改革・教育条件整備 「戻りたいと思える職員室づくり」
9.13	第2回 研修部会	能登川コミュニティセンター	第2回初任者研修会 年末調整事務資料の企画
11.11	「年末調整事務」 資料配信	滋事研Web	年末調整資料配信
12. 8	第2回 初任者研修会	Zoom	テーマ別意見交流会
R5. 2.16	第3回 初任者研修会	男女共同参画センター	年度末・当初事務 テーマ別意見交流会
3.31	「学校事務の仕事」 資料配信	滋事研Web	年度当初事務資料配信

今年度の事業を終えて（今後の課題）

デジタル庁が教育のデジタル化のミッションとして『誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会』を掲げられました。研修部においても、現地参集型の研修を実施するだけでなく、滋事研 Web で資料配信を、YouTube や Zoom を活用した研修動画の配信やオンライン交流会など、新しい学びの形の構築を進めています。

今後も学校事務職員としての心構えや基礎を培う場、役割を考えるための学びの場として、より多くの会員の皆様に参加していただける研修の企画、内容の工夫に努めます。

1. 日 時 令和4年8月18日（木） 13:45～
2. 会 場 ピアザ淡海 大会議室
3. 参加人数 89名
4. 内 容 講演：働き方改革 及び 教育条件整備

「戻りたいと思える職員室づくり」

講師：神奈川県横浜市立日枝小学校

学校事務職員 上部 充敬（うわべ みちたか）氏



第1回研修講座では、神奈川県横浜市立日枝小学校学校事務職員の上部充敬氏に「働き方改革及び教育条件整備 戻りたいと思える職員室づくり」について、ご講演いただきました。

講演では、職員室をリノベーションした経験を踏まえて、学校事務職員という同じ目線から働き方改革について教えていただきました。『環境が変われば意識が変わる 意識が変われば働き方が変わる』を基に『何のためにするのか』を職員に周知することの必要性、5段階のステップからありたい教職員集団へのプロセス、みんなで楽しんで環境をアップデートしていく大切さを学びました。

ありたい教職員集団への5段階

インフラ整備強化期	機器や空間をいつでも安全・快適に使える。
時間創出期	時間の使い方を見直し、ゆとりや時間を生み出す。
情報共有化期	いつでも誰でも必要な情報を効率的に入手できる。
コミュニケーション活性化期	対話を通し、互いの多様性を知り活かしあう。
ひびきあい期	前例にとらわれず、新たな発想・取り組みに挑戦できる。



参加者からは、「何かを始めるときは、何のためにするのか意識して取り組むことが大切だと学びました。」「周りを巻き込む大切さや、周りにその気になってもらう為にどう働きかけるかなど考えさせられる内容でした。」「組織の中で思いを形にしていく際、自分の考えを押し付けなくて、みんなで考えて作り上げていくことが大事という点、確かにそうだと思います。」といった前向きな感想をいただきました。

ワークショップでは、班別で5段階ステップの「時間創出期」にあたる時間予算ワークショップを行いました。時間のゆとりを生み出すために、できる工夫や削減すべき業務について意見を交換しました。

班ごとに内容を紙面にまとめた後は、各自会場を自由に回って他の班のまとめを見ながら、意見交流を重ねました。

参加者からは「データ・情報の共有化（文書、スケジュール、事務日より）」「Web ミーティングの活用」「マニュアルの作成（徴収金、機器の修繕方法）」「共同学校事務室の活用」「消耗品の見える化」など、すぐにそれぞれの職場で取り組みそうな案が多くありました。



研修部では明日からの仕事につながる、一歩踏み出せるような研修を目指し企画していきます。皆様の研修講座へのご参加お待ちしております。

初任者研修会

正規事務職員（1年目15名、2年目14名）を対象に、年間3回の初任者研修を実施しました。第3回については臨時事務職員、育休等の復帰者、複数配置等による業務交代者等も対象とし、希望される方には参加いただけるように案内しました。

第 1 回	1. 日 時	令和4年8月18日（木）
	2. 会 場	ピアザ淡海 207 会議室
	3. 参加人数	29名
	4. 内 容	(1) 滋事研組織の説明 (2) 講話「先輩事務職員に学ぶ」 (3) グループ討議

滋事研組織の歴史や活動、学校事務職員としての心構えについて、会長の倉辻より話を行いました。また、「先輩事務職員に学ぶ」と題し、参加者と経験年数の近い研修部員の実践事例についての話や、コミュニケーションや危機管理など、学校事務職員として大切にしていることについての話を行いました。グループ討議では、経験年数別に分かれて、一人ひとりが目指す目標について話し合うことができました。

第 2 回	1. 日 時	令和4年12月8日（木）
	2. 方 法	WEB 会議システム「Zoom」
	3. 参加人数	26名
	4. 内 容	グループ討議

仲間の発言に耳を傾け、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることを目標として、グループ討議を行いました。危機管理に関するテーマを設定し、原因や改善策について話し合うことができました。今回は経験年数混同のグループで行ったため、先輩に質問をしている姿や、後輩をリードする姿が数多くみられました。

第 3 回	1. 日 時	令和5年2月16日（木）
	2. 会 場	滋賀県立男女共同参画センター 研修室B・C
	3. 参加人数	35名
	4. 内 容	(1) 講義「年度末・年度当初の事務処理について」 (2) グループ討議

年度末・年度当初の事務処理についての説明を行いました。今年度制度改正が行われた共済組合の「短期組合員」についても説明し、改めて理解を深めることができました。年度末・年度当初に向けて必要な事務処理を確認し、余裕を持って、適切かつ迅速に行うための実践力を養いました。

グループ討議については、1年間の振り返りとともに、来年度の目標についても話し合えました。

資 料 配 信	1. 方 法	滋事研 Web にて資料配信
	2. 対 象 者	滋事研全会員
	3. 内 容	年末調整事務にかかる各申告書の記載例 （令和4年 11月） 学校事務の仕事 （令和5年 3月）

令和2年度より、初任者研修会として年末調整事務の説明を行わないこととしており、その経過措置として、滋事研 Web にて全会員向けに記載例を配信しました。今年度で配信が最後となるため、令和5年度以降は共同実施や共同学校事務室を活用し、年末調整事務を進めていただくようお願いいたします。

他にも初任者向け資料「学校事務の仕事」を作成し、4月の着任時に業務を円滑に進められるよう、滋事研 Web に掲載しました。

初任者研修会では、今後も基本的な事務についてより分かりやすく、またグループ討議を通じて他校の事務職員との交流を図り、知識や考え方の幅が広がるような内容を検討していきます。そして、目指す事務職員像に近づけるよう、一人ひとりがスキルアップできる研修会を企画します。

広 報 部

今年度の事業について

主な事業として広報紙「さざ波」を2回（122号・123号）発行しました。

実践特集として令和3年度教職員課研修報告や栗東市・共同事務室の初年度の取り組み（若手事務職員が担当した新転任者への支援）などを掲載しました。また、会員相互の交流の場として新規採用者（15名）・滋事研本部役員の紹介、会員のペンリレー、じむせんコンテストなどを連載しました。さらに初任者の悩みに答えるコーナーや仕事を豊かにするアイテムの紹介、研究大会の振り返り、広域研修講座（東近江市・近江八幡市・愛知郡・蒲生郡）の紹介などタイムリーな情報発信に努めました。

滋事研のホームページ（shijiken.com）では、研修事業等の案内、ハンドブックの更新、滋事研活動や事業報告の情報提供を行いました。さらに会員専用コンテンツとして滋事研オンライン研修のページを用意し、初任者研修などをサポートしました。

研究大会では、ICT機器の操作支援を行いました。

開催日	会議・事業名	会 場	会議・事業案内
R4.5.13	第1回広報部会	コミュニティセンターなかさと	今年度事業計画 さざ波122号 企画 ホームページの検討・更新
7.8	第2回広報部会	竜王町立竜王西小学校	さざ波122号 編集・校正
8.31			「さざ波」122号発行
11.22	第3回広報部会	竜王町立竜王西小学校	さざ波123号 企画 ホームページの検討・更新
R5.2.10	第4回広報部会	ビデオ会議システム	さざ波123号に掲載する記事（初任者相談など）の協議 主な編集・校正はグループウェアで実施
3.23			「さざ波」123号発行

今年度の事業を終えて（今後の課題）

広報紙「さざ波」は実践紹介を中心にペンリレー、じむせん、初任者の悩み相談の記事など、会員の交流の場となるような紙面づくりに努めました。今後、各専門部会と連携しながら、会員の思いがより反映された親しみのある紙面づくりをしていきます。

ホームページはタイムリーな情報掲載を心がけました。今後も会員の意見に耳を傾けながら、さらに活用しやすいページを目指します。加えて引き続き滋事研オンライン研修ページの有効活用に努めていきます。

また、部員や会員のICT活用能力の向上のため、可能な範囲で研究大会や各種研修会等にかかるICT機器の操作支援を行います。

New Face

令和4年度・新規採用事務職員15名の皆さんに質問してみました！



甲賀市立柏木小学校
かわにし こうた
川西 浩太

- ① 学校に一人だけ聞いていたので非常に不安でしたが、前任者の方や地域学校事務室の方々による手厚いサポートによって自分一人じゃないんだと感じることができ、うれしくなりました。感謝、感謝の毎日です。
- ② 最初はわけがわからなまま様々な物事が進んでいくことが多く、周りの方々にサポートしていただいている毎日ですが、少しでも早く先生方をバッチリ、サポートできるように頑張りたいです。



彦根市立鳥居本中学校
ごしま さおり
五島 早織

- ① 先生や保護者の方に「ありがとう」と言ってもらえるのが嬉しいです。また、生徒と会話すると気分転換にもなり、学校事務職員ならではの楽しさだなと思います。
- ② 年度当初の事務処理がわからなかったことばかりで大変でしたが、近隣の学校事務職員の方がとても優しく教えてくださって、乗り切ることができました。感謝しかありません。



日野町立南比都佐小学校
やまじ かずき
山路 和輝

- ① 毎日、子どもたちが元気にあいさつしてくれるのが嬉しいですね。
- ② 多岐にわたる業務を理解することが大変です。

- ① 学校事務職員になって嬉しかった(良かった)ことは？
- ② 学校事務職員になって大変だった(困った)ことは？



竜王町立竜王小学校
なかむら あつや
中村 敦也

- ① 先を見据えて備品等を購入したときに先生から「ありがとう」と言っていただけのことです。
- ② やること全てが大変です！



長浜市立小谷小学校
すみだ ゆきひろ
角田 幸優

- ① 思っていた以上に子どもたちの姿がかわいいうことでした。
- ② 年度当初の異動者・新規採用者の事務処理や手続きがとて大変でした。



果敢市立業山中学校
ほりうち たいせい
堀内 大成

- ① 仕事をやる中で、先生方から「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた時です。
- ② 締め切りに追われて、追われて、繰り返した時に大変さを感じました。



近江八幡市立阿山小学校
あきやま めぐる
秋山 行

- ① 先生や保護者の方に聞かれたことを解決できたときに嬉しかったです。
- ② 4月のなにもわからないう状態で、提出期限が短い書類が多かったのが大変でした。

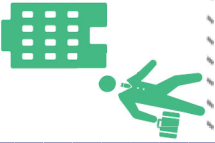


さざ波

令和3年度教職員課研修報告

大津市立石山中学校
主任事務主事 内田 多壽史

石山中学校の内田です。令和三年度は皆様大変お世話になりました。皆様のおかげで無事一年研修を全うすることができました。特に私の担当の北部・高島地域の皆様には頼りない担当で申し訳ありませんでした。さて今回「さざ波」の原稿依頼をいただきました。この記事を作成しておりますが、年間を通してのことは、前任の方々がいろいろ記載してくださるので私は主に行ったこと、前任の方々の時とはちよと違ったかなと思うことを書いていきます。



滋賀県公立小中義務教育学校事務職員の職階に応じた人材育成指標

自分がこの一年間で一番力を入れたのが人材育成指標の策定でした。といっても私が関わった時には大枠はほぼ完成してあり、それをいかにして発出するかという時でした。私に課せられたミッションは、今年中に人材育成指標を策定し通知することでした。結局十二月二十七日に各市町教委あてに送付しておりギリギリな仕事になってしまいましたが、なんとか達成することができました。この指標の策定にあたって多くの方々と何回も協議をしたり、それに伴う資料を作成したり、時には

根回ししたり、普段学校でなかなか経験できない業務は大変でもありましたが、やりがいもありとてもよい経験となりました。

さて、六月十七日に滋事研の研修会で福永係長が説明してくださいだったので中身については詳しくは書きませんが、これを策定するにあたっては他府県のものを参考にするともに、学校事務職員だけではなく教育委員会内での協議や校長会等、色々な立場の意見や想いを反映させて策定しました。今後はこれを元に研修計画や各市町で標準的の職務の見直しにつなげていく必要があります。この人材育成指標をもとに滋賀県の学校事務職員が新たなステップを踏めるように、今一度読み込み自分自身に落とし込んでいただければ幸いです。



退職手当

令和二年四月の地方公務員法改正により臨時職員も退職手当の支給対象となりました。

私が赴任した令和三年四月は、教職員課で臨時職員の退職手当支給を大量に行う初めてのタイミングでした。そのため教職員課での事務処理体制が十分に構築されておらず、手探りの中で作業を行いました。支給対象者や学校に大変迷惑おかけして申し訳ありませんでした。

制度の過渡期で処理の仕方だけでなく制度そのものへの理解不足(主に私が)もありましたが、退職手当の業務はチームで対応していく形をとっており、不明な事があれば業務をしている現場で確認していくことができ、さらに業務の対応について各々が意見を重ねるよりよくしていくことができました。

そのかいあつて、今年度の退職手当の支給については、去年に比べて滞りなく進めることができましたと聞いています。もちろん、今年度対応してくださった教職員課の方々、張りが一番大きかったのは言う

までもありません。年度当初の退職手当に関わる事務処理はとても大変でしたが、チームで働いている「実感」というものをすごく得られました。

さいごに

この一年間、教職員課で働くにあたっていろいろな知識を学ばなければいけませんでしたが、自分が苦手にしてた部分を鍛えなおす必要もありました。業務としてしんどいこともたくさんありましたが、それに見合うだけの「経験」を得ることができました。この研修で学んだことをしっかりと還元できるように努めていきます。

また上記のこと以外にも抜費制度を一部変更たりもしました。学校にいただけならほぼできなかつたなところがたくさんできました。ぜひ今後機会があれば研修生として行ってみてください。新しい新たな気持ち、押さえて方等絶対に得るものがあると思います。ちなみに給与係もシステム化や働き方改革などを進んでいますので、みなさんが思っているよりは、大変じゃないかもしれません。…よ笑



どのような学校事務職員になりたいかこれからの抱負を五・七・五(川柳)で述べると？
滋事研恒例の川柳を新規採用事務職員の皆さんに考えていただきました！

みんなから信頼される事務職員

小谷小学校 角田 幸優

久しぶりの五七五した。おすかし笑

仕事して早く帰る事務職員

上田小学校 高畑 巴伽

時間内に仕事を終わらせて帰れるように毎日頑張ります。

基本通り初心を忘れぬ事務職員

野洲中学校 奥村 雅夢

多くの業務を覚えていく中で、基本を超えた応用のやり方に気が付いていくこともあるかもしれないです。要領良く業務に取り組むことも大事ですが、一つ一つの業務に対して基本に忠実に取り組んでいくことが大事だと考えます。

追われるな締切りまで余裕もて

葉山中学校 堀内 大成

未来の自分に言い聞かせました。

「大丈夫」と思ってもらえる事務職員

高時小学校 力石 亜里紗

今はわからないことはかりで、先生方の質問にも「確認します」とお答えすることが多いのですが、早く仕事を覚えて「事務校事務職員になりました」と思ってもらえる学校事務職員になりたいと思います。

なにがともいつも手早く正確に

蒲生西小学校 早水 香名恵

たくさんの仕事があっても、正確に仕事が進められるよう頑張りたいです。

迅速で融通がきく事務職員

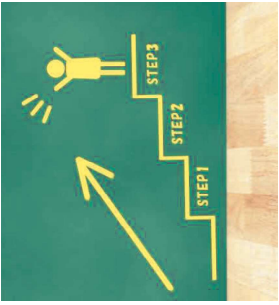
鳥居本中学校 五島 早織

仕事を早く終わらせて余裕があり、学校のためになんとか融通を利かす学校事務職員になりたいです。

質問にすべて応える事務職員

岡山小学校 秋山 行

学びを継続し、わからないことを少しずつ減らしていきたいです。



一歩一歩確実に！



大津市立瀬田北小学校
しゅうさく
岸 周作

- ① 前職と比べて土日祝祭日の休みが増え、福利厚生も一層充実したことです。また、先輩や先生方のサポートも手厚く、毎日清々しい気分です。
- ② 4月～5月にかけて仕事量が非常に多く、そのいずれもが金銭に換わる非常に責任の重い手続ばかりであり、少々辛かったです。



長浜市立朝日小学校
そうじろう
細江 宗次郎

- ① 子どもたちの笑顔が自分自身の元気と仕事へのやりがいになっていきます。また、子どもたちや先生方から頼られることが増えてきて、少しずつ信用と信頼を得られているのかなどと思っております。
- ② 4月か5月でも早く、右も左もわからない状態での仕事をする為、他の教職員の方々に迷相談させていただき、お金や書籍等の管理はできていたかなど、不安になることがありません。



長浜市立高時小学校
ありさ
力石 亜里紗

- ① 様々な人と関わりながら仕事を進めていけることです。周囲の人に支えをもらいながら何とか乗り切っています。今後は自分が周囲の人の力になれるよう頑張りたいです。
- ② どの仕事をどうこなしていけばいいかわからなかったことです。わかっているけれどそれほど時間をかけず済むものでも、慣れるまでは大変だと感じました。



野洲市立野洲中学校
おくむら
奥村 雅夢

- ① 先生方から頼られたことや日々の業務を一つ一つ解決していけることが嬉しいです。また、全ての業務が子どもたちの成長につながっているとと思うと、仕事にやりがいを感じます。
- ② 業務の幅が広く、毎日様々な業務に追われていることです。本校には幼稚園の学校事務職員がおり、多くの面で指導していただけるといいう、恵まれた環境の中で何とか仕事に取組むことができています。



大津市立上田上小学校
たかはた
高畑 巴伽

- ① たくさんの人と関わり合いながら仕事ができることです。
- ② 色々な用語が飛び交うので、意味を理解するのにとても時間がかかりました。



東近江市立蒲生西小学校
かなえ
早水 香名恵

- ① 久しぶりに給食が食べられるので幸せです。4月の学校の忙しさに食べられるので幸せです。
- ② 1か月以上たつ今でも知らないことがたくさんあるので、毎日新鮮です。



湖南市立石部小学校
くぼ
久保 彩羽

- ① 思っていたよりも子どもたちと関わる場面が多々あり、「いろは先生と一緒に遊ぼう!」と誘ってもらえたことが嬉しかったです。
- ② 仕事内容が思ったよりも多く、どこに文書やシステムがあるのかわからなかったことです。



愛荘町立愛知中学校
いちえん
一圓 瑞季

- ① 生徒と直接関わる機会は少ないですが、毎日仕事ができる生徒たちの声を聞きながら、毎日仕事ができる場所です。
- ② 初日から何も分からず現場に立たなければいけない場所です。周りのたくさんの方々に支えられていると感謝しています。

共同学校事務室が動き出す前までは新転任者への定期的な支援は加配事務職員が行っていましたが、共同学校事務室の始動に伴い、新転任者への支援は主に室の中で行うことになりました。そして昨年度、私がその支援の主担当を担うことになりました。支援は月一、二回、その時の支援内容に合わせて、新転任者の学校に出席する場合とリモートで行う場合と使い分けた支援を行いました。

主な支援内容は諸手当の事後確認や年末調整事務など開催時期に合わせたものや事前に新転任者へ聞き取りを行い、それに合わせた内容の支援などを行いました。今までは新転任者から電話などで質問があればその都度答える事しかやっていたことなかったため、こちらから「今後困りそうなことはないかな?」「今はこれを教えるよりもこっちの方がいいかな?」などとの

▼新転任者への支援

粟東市では昨年度から共同学校事務室が始動しました。一年目ということもあり手探りで試行錯誤しながら行ってきた共同学校事務室での業務の中から、今回は主に私の担当した業務と、共同学校事務室を週して学んだことを紹介します。

粟東市・共同学校事務室 初年度の取組を紹介します。
 粟東市立粟東中学校
 事務室主任 宮本 栄光子



▼最後に

振り返ってみると、新転任者への支援を通して、私自身の方が多くのことを学ばせていただいた一年間でした。

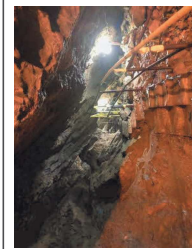
今年度も昨年度の反省を生かし、事務職員同士、少しでも仕事の不安や悩みを減らしていける支援を室全体で行っていただきたいと思います。

たね部員が
 推しはココ!
 しがの
 ええと二

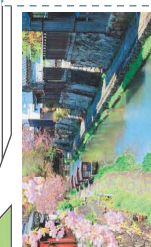
コロナ禍で観光に出かけられるのも難しくかつたこの2年半、今こそ滋賀県の魅力を再発見してもらおうと、広報部員の地元や勤務地のおすすめスポットを紹介しています。

今回は前回紹介できなかった滋賀の『ええと二』を紹介します。

河内の風穴(多賀町)
 鍾乳洞の風穴で、入り口は高さ1mと少し小さいのですが、その奥は広く、夏に行くとしても涼しいので快適です。

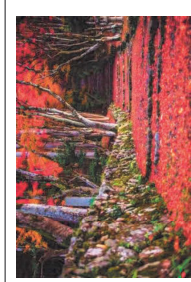


八幡堀(近江八幡市)
 春には桜、夏には柳、秋には紅葉、冬には雪景色と四季折々の風景が楽しめます。



和舟に乗り、風景を楽しむプランもあります。

もちろん滋賀県にはまだまだ魅力的な場所・特産品がたくさんありますよね。みなさんの滋賀の『ええと二』を教えてください。



鵜足寺(長浜市)
 ゆるやかな参道の石段、苔むした石垣に二百本ものみじの古木が幽玄な情景を醸し出しています。

紅葉シーズン以外も、緑が美しく、森林浴を楽しみたい方におすすめのスポットです。



龍になるため滝を登る鯉の如く成長していく子供たちを、滝壺の池(学校)の中から見守る鯉(龍の生えた年長者)でありたいと思います。

**滝登る
 鯉見届ける
 鯉かな**
 瀬田北小学校 岸 周作

**基礎基本
 コミュニケーション
 重んずる**
 南比都佐小学校 山路 和輝

初心を忘れることなく精進します

**誠実で
 努力をおしまぬ
 仕事人**
 柏木小学校 川西 浩太

子どもや保護者先生や地域の方など、いろいろな方に頼っていたる存在になれるように頑張ります。

**川柳も
 すばやく言える
 事務職員**
 朝日小学校 細江 宗次郎

理想の事務職員像を川柳で表現するのは難しかったです。なのでこのような時でもすぐにアイデアがだせる頭の回転が早い事務職員になりたいです。

**この一年
 まずは乗り切れ
 頑張るぞ**
 竜王小学校 中村 敦也

二年目から少しずつ慣れると思うので、この一年をまずは乗り切ろう!という意気込みです!

**みなさんに
 信頼される
 事務職員**
 石部小学校 久保 彩羽

子どもや先生の個人情報なども扱うので、みなさんから信頼される事務職員になりたいからです。

**私なり
 感謝の気持ち
 忘れずに**
 愛知中学校 一圓 瑞季

私なりに焦らずにひとつずつ仕事をこなしていきたい手を差し伸べてくださるたくさんの方々に感謝の気持ちを忘れず伝えたいという気持ちを込めました。



お忙しい中、新規採用事務職員の皆様にはご協力いただき、ありがとうございます。「初心忘るべからず」で川柳に込めていただいた思いを大切に頑張ってください。「滋賀研のみんなと一緒に「滋賀の子どもたちの豊かな育ち」のために頑張っていきたいと思います。」

大会テーマ「創造しよう!教育を活かす学校事務を」



サブテーマ「あっ!これならワクシ、できてるかも!?」～子どもの豊かな学びと育ちへの一歩を見つけよう～

第51回滋事研・研究大会に参加された皆様から頂いた感謝の一部をご紹介します!
オンライン開催でしたが、当日は多数のご参加ありがとうございました。

全体会 研究報告 & 講演会

貴重な研究会になりました。来年は自分が発表したい。そのために仕事を頑張ります🙌🙌🙌

実践発表、ご講演ともに、自分の気づきをカタチにしていくことの大切さを改めて感じました。

全体会の発表から、今後はカリキュラムマネジメントへの関わり方が前向きになれるような気がします。

事務だからこそそこという考え方を持って仕事に臨んでいこうと思えました。

実践発表での若い方のしっかりした取り組みに刺激されました。

Q印象に残った言葉、内容などがあれば教えてください。

- ・ 「他人事から自分事へ」
- ・ 支援から創造へ
- ・ ジブアゴト
- ・ 育て合い高め合う共同実施
- ・ アジャイル思考
- ・ 頭みを補い合うこと
- ・ なんでもできる!

第1分科会 (東近江市)

とても親近感があって、田中君と共に成長できた気がしました。

業務改善につながるように自分たちに置き換えて考えていきたいです。

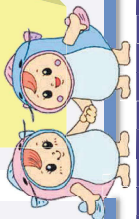
他市の活動などを知る良い機会になりました。

実践事例や取り組みへの姿勢など素晴らしかったです。

今までにないような分科会で、アニメーションのように楽しく通っている仲間がいて内容が入りやすかったです。

「地域みんな子育ていこう」は、地域とともにある～にも共通する素敵なキーワードだと思います。

小規模は小規模で大変なことがある。少ないながらも、その利点を活かしておられると思いました。



第2分科会 (愛知・犬上郡)

準備期間は一年以上あったものの町をまたぎ、郡をまたいでの連絡調整等に時間がかり、一つものを作り上げるこの大変さを実感しました。

研究大会当日までに実行委員会で何度も会議を重ねました。当日を含め本当に多くの方が携わって研究大会が開催されたことと実感しました。

研究大会の運営にかかわることとして本当に貴重な経験ができたこと感謝しています。これを郡や町の研究会活動に生かしていきたいです。ありがとうございます。

豊郷町立豊日中学校
大橋 拓也

第1分科会 東近江市

事務局長 野村 亮太
(東東市立大宝西小学校)

研究大会は今後も続いていきます。これから実行委員会の重責を担う方は、ご自身の成長のチャンスだと捉えることで新たな視野を広げることができると思っています。

取得しそのスキルを多く生かすことができました。研究大会は今後も続いていきます。これから実行委員会の重責を担う方は、ご自身の成長のチャンスだと捉えることで新たな視野を広げることができると思っています。

東近江市立市原小学校
継方 孝次

第2分科会 愛知・犬上郡

準備期間は一年以上あったものの町をまたぎ、郡をまたいでの連絡調整等に時間がかり、一つものを作り上げるこの大変さを実感しました。

研究大会当日までに実行委員会で何度も会議を重ねました。当日を含め本当に多くの方が携わって研究大会が開催されたことと実感しました。

研究大会の運営にかかわることとして本当に貴重な経験ができたこと感謝しています。これを郡や町の研究会活動に生かしていきたいです。ありがとうございます。

東近江市立市原小学校
継方 孝次

さざ波

編集および発行
滋賀県公立小中学校
事務研究協議会

■ 今号の誌面
〈1・2面〉
第51回滋事研・研究
大会を振り返って

〈3面〉学校事務職員
広域研修

〈4面〉人事異動を経
験して、初任者相談

〈5面〉オンラインスラック
しがのえそとこ

〈6面〉ペン・レレ、じむ
せむ、編集後記

滋事研・研究大会を振り返って

令和4年11月25日(金)に第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会をオンラインで開催しました。今回は誌面に実行委員会の皆様の様子を振り返っていました。

第51回滋事研研究大会の開催に際しましては、皆さまのご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。多くの皆さまにご参加いただきましたことを心より感謝申し上げます。

実行委員会では学校事務職員の日常の業務のなかにある「気づき」から繋がる学校運営への参画と役割としてその一歩先にある「可能性」について参加者の皆様と一緒に考え、また周りの人と思いを交流することで、学んだことを明日から活かしてやってみようという活力を持つて帰っていただけるような研究大会にしたいと考え取り組みました。

準備を進めるなかで、私自身も様々な振り返りから、自らの実践や課題、悩みについて改めて見つめなおすことができました。また、今回この機会を重ねることによって多くの刺激を受け、これからすべきことの方性についても考えることができたと思っております。学校では単数配置ゆえに悩むことも多く、一歩踏み出す際に躊躇する場面も多々あると思っておりますが、今回の経験を活かし、市町での活動においても皆で考え話し合うことで、それぞれが目標に向かい活力をもつて取り組めるよう常に意識をもつて進めていきたいと思っております。

実行委員長 西村 智子
(東東市立大倉小学校)



第51回滋事研研究大会は、かたちとして残ります。今回は参加者の「気づき」と学校事務の「可能性」をキーワードとして、研究大会を作りました。研究大会を終えた後、みなさまの歩はなにか見つけたりしたか? さて、事務局長を引き受けさせていただいたことで、ひそかに自分の中で一つ宿題をだしていました。それは、実行委員会も研究大会参加者も「誰も取り残さないこと」です。その中で実行委員会の運営に関わって一番気を付けたことは、「合意形成」です。実行委員会のメンバーが自分事として捉えてもらうように、会議の中で意見を出してもらう工夫をし、なるべし全員の見解を取り入れ、折り合いをつけながら合意形成を図ることは、大変な作業でした。事務局長という役割を担う中で、自分の宿題の「誰も取り残さないこと」が達成されたか? 「ファシリテーション能力」、「ストレス耐性」、「諦めずにやりぬく力」は確実に成長したと実感

しています。そして事務局長という役割上、多くの書籍に触れることで「知識やスキル」を学ぶことができてきました。(私事です)が、この夏社会教育士の資格も取得しそのスキルを多く生かすことができました。研究大会は今後も続いていきます。これから実行委員会の重責を担う方は、ご自身の成長のチャンスだと捉えることで新たな視野を広げることができると思っています。

事務局長 野村 亮太
(東東市立大宝西小学校)

第1分科会 東近江市

東近江市事務研究会として「つながり」について研究を続けてきた3年間で、私たち学校事務職員は本当にたくさん「つながり」の中で仕事をしていて、誰かを支えることもあれば、誰かに支えられることもありました。みなさまに私たちの考える「つながり」について少しでも思いが伝われば幸いです。

文部科学省の廣田先生より「『つながり』は、自分の力で広げるもの。その営みを止めてはいけない。」とお話をいただきました。

また、「教育を支援する学校事務をめざして」というテーマには、「教育を創造する」「子どもたちの幸せを生み出す」学校事務であるようにとお話をいただきました。これからも私たちは、人との「つながり」を大切にしながら、「子どもたちの未来を創造する」学校事務を目指して活動をしていきたいと思います。

東近江市立市原小学校
継方 孝次

第2分科会 愛知・犬上郡

準備期間は一年以上あったものの町をまたぎ、郡をまたいでの連絡調整等に時間がかり、一つものを作り上げるこの大変さを実感しました。

研究大会当日までに実行委員会で何度も会議を重ねました。当日を含め本当に多くの方が携わって研究大会が開催されたことと実感しました。

研究大会の運営にかかわることとして本当に貴重な経験ができたこと感謝しています。これを郡や町の研究会活動に生かしていきたいです。ありがとうございます。

豊郷町立豊日中学校
大橋 拓也

人事異動を経験して

早くも年度末が近づいてきましたね。人事異動の季節です。今回は、広報部で人事異動を経験した部員3名、人事異動未経験の部員1名に感想を聞きました。また先輩部員からのアドバイスもいただきました。

最前職職員の手当関係事務などの制度は市町が変わっても一緒ですが、共同実施における認定審査の手続きやファイリング方法など、市町が変わると細かい違いがあり戸惑いました。わからないことも色々あるかと思いますが、一つずつ覚えていけばよいと思います。また、前任の方にいただいた引継書がとても役立ち助かりました。
部員 O

小規模校から大規模校への異動。また小学校から中学校への異動とても戸惑いました。しかし、中学校に来たことで、小学校では経験しなかった給食や部活に関する手当など勉強になりました。
部員 K

初めての人事異動に向けて手探りで異動準備を進めています。引継ぎの取扱選択に四苦八苦しています。特殊な対応が必要な事例を重点的に分かりやすい引継書になるように心がけています。
部員 M

～アドバイス～

自分が現任校に着任・異動した時、助かったことや困ったことを思い出して、前任者として後任の事務職員が困らないよう引継ぎをしてみてください。引継ぎ方法は市町により様々だと思いますが、一番大切なのは「**相手を思いやる気持ち**」だと思います。自分も相手も気持ちよく、新年度がスタートできるような頑張りましょう！！

新規採用学校事務職員が答えてみた。

Q1. 提出物を出して下さらない先生がいた時に、どのように声掛けをしていますか。

A1. 経験年数に関わらずだれでも経験する悩みですね。しつこく声をかけることも大事ですが、なぜ提出物が必要なのか、なぜ提出されていないのか、理由を説明するようにしています。

Q2. 物品の在庫管理、書類の整理方法はどのようにしていますか。

A2. 届出郵便物のルーティーンの中に消耗品の補充や、在庫の少ないものを注文する時間を作っています。毎日チェックすることで取りやすい消耗品などを知ることができます。書類の整理は市町により異なるので、互いの先輩に確認しましょう。本誌の面掲載「働くをもっと快適にする～オフィスハイク～」も参考にしてみてください。

Q3. 効率よく作業するためのスケジュール管理の方法、優先順位の付け方について教えてください。

A3. ToDoリストを作成し、スケジュール管理をするようにしています。ノートに書いていたり、Googleカレンダー等管理する方法は様々です。色々試しながら自分に合った方法を探してみよう。優先順位をつけることも大事ですが、早く完了できるものから終わらせていくのも方法の一つです。決った大きな仕事は、細分化し少しずつ進める方法もあると、研修会で学んだことがあります。

Q4. 一年目や経験年数の減った時期にもっと頑張っておけばよかったと思うことはありますか。

A4. 滋研等主催の研修会や、研究会には参加しただけじゃよかったと思います。ライフステージが変わると、参加する機会が減ることもあるので、行けるうちに可能な限り参加すると良いと思います。時代の変化に対応するために、学び続けることが大事です。Let'sリスクリング！



東近江市、近江八幡市、蒲生郡、愛知県

学校事務職員 広域研修講座

東近江市では小中学校事務支援センター内のタスクチーム「研修推進チーム」が中心となり、研修プログラムに基づいた体系的な研修に取り組んでいます。その一環として例年、東近江市教育研究所にて学校事務職員研修講座を実施していただいています。研修講座のテーマや講師については、研修プログラムに基づいた内容となるよう、教育研究所と研修推進チームが協議しながら設定しています。

今年度の研修講座を企画するにあたり、教育研究所より「事務職員は人事異動が広域で行われている。各市町で資質向上を目指すことにとどまらず、広域で研修を行うことに大きな意義がある。東近江市の事務職員だけでなく、近江八幡市蒲生郡、愛知県にも呼びかけをし、広域で開催してはどうだろうか」と提案いただきました。研修推進チームとしても、広域での新規採用事務職員研修の可能性を模索していたところであり、この提案は非常に嬉しく思いました。

そして、教育研究所の尽力により、10月27日(木)に東近江市、近江八幡市、蒲生郡、愛知県の学校事務職員を対象とした、広域研修講座を開催されました。講師には、拓殖



大宇国際学部国際開発研究所准教授石川一喜氏を迎え、「教職員と協働して教育活動の充実を図るために」学校事務職員一人一人が「アシリテーター」として活躍しよう」として、講義・演習を行いました。

次年度以降も、広域での研修講座が継続して開催されるよう、教育研究所と研修推進チームで協議を進めています。市町により事務職員を取り巻く環境は様々ですが、「滋賀県公立小・中・義務教育学校事務職員」の職階に応じた人材育成指標が示されたことにより、共通の目標・目的をもつて人材育成に取り組むことができるようになりました。

これがチャンスと捉え、市町が異なっても共有協力できる部分を見出し、広域の地域みんなで育っていくような人材育成の体制を構築していければと考えています。

東近江市立愛東中学校 徳田 (研修推進チーム GL)

研修会に参加した、新規採用の3名に研修の感想を聞いてみました。



研修の最初には、カードを使って自分の思いや考えを伝えたり、趣味や名前などを書いた紙を使ったりしながら、自己紹介をしました。フアンリテーターとして活躍するために、鳥の目・虫の目・魚の目の三つの視点を持って物事を見たり、反対の意見を考えたりする等の考え方を学びました。実際とは違った、事務職員としての資質を高めることに繋がる有意義な研修でした。

私はリーダーシップもなければ人前で話すことも得意ではありませんが、研修でフアンリテーターの意義や役割について学びを深めたことで、自身も組織にとつて欠かせない存在になりたくなりました。既存の最大限の組織に引かれず、円滑に進行することが重要な役割です。私も学校という組織の中で、人と人をつなぐことができたいと思います。

事務職員にもフアンリテーション能力は必要だと実感しました。事務職員同士でグループ討論をする。その中において、司会者を決める。では、残りには何をあたるのか。その人達もフアンリテーターになるかと思っています。参加者に発言を促すサポート役という意味もあること誰か一人だけフアンリテーターになることでは無く、それぞれがその一員になるかと思っています。今回の研修で学んだことを、職員会議や共同実施で活かしていきたいと思っています。

全書研読賞大会 実行委員の募集

すでに皆様ご存知だと思いますが、令和7年夏に滋賀県第57回全国公立小中学校事務研究大会が開催されます。研究大会が開催されたのは約50年前です。滋賀県の学校事務職員としてこのチャンスは逃すわけにはいきませんが、ぜひこのチャンスを活かしてみよう。という方は、上記のQRコードよりお申し込みください。みんなの力を合わせて成功させましょう。



「吉田流リフレッシュ方法」

甲南中部小学校 吉田 峻

皆さん、初めまして。
今年で3年目になりました。22歳
吉田峻と申します。短い冬休みが
終わってしまい憂鬱な気持ちでこ
の文章を作成しています。
ということ僕のリフレッシュ
方法についてですが、主にゲーム
とサッカーをすることです。
ゲームは平日は毎日20時から
24時までぶっ通しでやっています。
FPSという銃を撃つゲームにハマ
ってしまい、その代償として2.0ハ
あった視力が毎年0.5ずつ落ちてき
ています。
サッカーは教職員中心に構成さ
れた社会人チームに所属していま
す。今年は滋賀県内のリーグで2
位になりました。毎週木曜日に練習
があり、日曜日に試合があるの
で週に2回は体を動かしています。
こんな感じでリフレッシュしてい
ます。ゲームする時間を減ら
したいので、皆さん何かいいリフ
レッシュ方法があれば教えていた
だきたいです！



会員のペシリレ

わたくしがわたくしにもどるとき My りふりっしゅ Time



「マイ ヒーロー」

草津第二小学校 宗和 康代

私の楽しみの1つは、野球観戦です。
昨シーズンは、中学生の頃から応援しているとても
大好きな選手の引退がありました。現役19年間威
張らず、謙虚に努力を続ける姿にいつも勇気づけら
れてきたので、とても悲しかったんです。引退セレモ
ニ当日、チームが3位争いをしている中で先発投
手にしてくれる監督の粋な計らいや、1軍2軍の選
手、相手チームの選手、移籍前球団の選手、歴代選
督からの「お疲れ様」のメッセージ！この選手の人
柄あってこそこの今日だなど感じ、私も球場で大号泣
してしまいました。ファンになって以来、応援して
いる側なのにとても元気を貰っていたんだなど実感
しました。
引退セレモニー後の帰路では、大型な台風の影響
により、新幹線が名古屋までしか帰れず…。翌
日始発でスーツケース片手に出勤し、一気に現実に
引き戻されたのもいい思い出です。

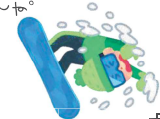
この選手は誰でしょう？



編集後記

私が、寒い日が続いております
でしようか。いかがお過ごし
でしょうか。
私はこの冬スノーボードに
行きました。ゲレンデを華
麗に滑る自分をイメージし
ながら道具を準備し、早朝
から出発したのですが、いざ
滑り出すとなかなか思い通
りにはいかず、自分のイメ
ジとはかけ離れた不甲斐な
い姿をゲレンデで晒してい
ました。
日々の仕事の中でも思い
通りいかず、悩むところあり
ます。

私は今年度から広報部で
お世話になり過去の「さざ
波」を読み返すことが増え
たのですが、過去の記事に
改めて目を通すことで、自
分の悩みを解決するヒント
を得ることもあり、感謝し
ています。皆さんも、もし仕
事に行き詰まることがあれ
ば目を通してみてくださいは
がてしあうか。
今回の「さざ波」も皆さん
にとりて何かの参考になれ
ば幸いです。



じむせんコンテストは、ついに第十三回目
に突入でござる！選ばれた2人には今回もな
に豪華賞品を送るでござる！今回選ばれな
な諸君も、次回に向けて、新たな斬新！爆笑！
な川柳を考えておくれのじゃー！
〒523-0061 近江八幡市江頭町1014 北里小学校 小橋 頌
Mail: saki.ogura@oni-hachijimon.ed.jp Fax: 0748-36-8049



第十三回 じむせんコンテスト

学校事務職員あるある川柳

- ◎ もういよいよヤギさん出てい かくれば【リス侍】
作者 「誰がこんなにいっぱい紙使っているの？」
選者 「こんな紙を買ったばかりなのに もうないでござる！
印刷ミスにはくれぐれも注意してほしいものじゃあう…」
- ◎ 「誰もいない」 いやいや、私 いますけど【学校事務大好き】
作者 「先生の口ぐせです。けつこう傷きますよね。」
選者 「確かに先生は誰もいないかもしれぬが、事務職員の私 いますけどー！」

オフィス ハック

快適にすむ
おのれ

今回は広報部員が勤務校で行っている業務効率化や仕事を豊かにするアイテムを紹介いたします。

○電池式ワイヤレスマウスを使っている方必見！！

電池式のマウスって結構重たいですよね...そこで使のが単三型電池変換スベーター!!たとえば、EVOLTAの単三電池は約24gで、単四電池は約11gでした。軽いスベーターを使用すれば、それなりの軽量化につながります。
※単三から単四になることにより、当然電池の持ちが悪くなります。



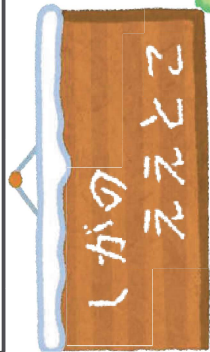
○今日する仕事を覚えておかない書類、保管に困りませんか？

マルマンのラミネートプリンディングスA4縦数字1-31がとても便利です!!スケジュールを日付ごとの31仕切りで管理できます。1週間後にする仕事は1週間後のその日にファイリングします。毎日今日のページを見ると今日する仕事が入ります!ポケットファイルと合わせれば穴を開けることもなく、挟み込むだけなのでストレスもなく使用できます。

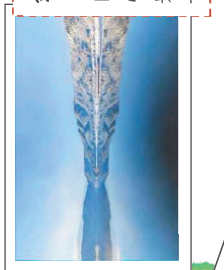


○電話メモを書く文字省略!!

電話を受けたときに相手から不在の場合どのように伝えていきますか?そんな時には電話メモを作っておくと便利です。インターネットに無料のテンプレートがたくさんあり、裏紙を利用してメモを作っておくと「お電話がありました」や「折り返しお電話ください」などチャットを入れるだけで相手に伝えることができ、少しでも書く文字を省略できます。

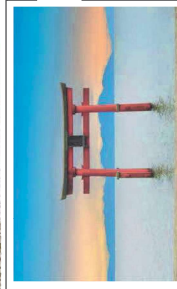


コロナ禍で観光に出かけるのも難しくなったこの3年、今こそ滋賀の魅力を再発見してもらおうと、広報部員の地元や勤務地のおすすめスポットを紹介いたします。



余呉湖 (長浜市)

様々な伝説が残る絶景フォトジェニックスポイントとして知られています。
景色だけでなく、冬にはワカサギ釣りでも有名です。



白鬚神社 (高島市)

白鬚神社では「湖中に浮かぶ大鳥居」が有名です。
また日の出スポットにもなっており、連日のように日の出前から多くの人が集まります。パワースポットとしても人気です!



満月寺浮御堂 (大津市)

湖中に浮かぶお堂の景観の素晴らしさは、近江八景「堅田の落雁」とされています。
中に入るとびわ湖湖が一望できます。

もちろん滋賀県にはまだまだ魅力的な場所・特産品がたくさんありますよね。みなさんの滋賀県の『ええところ』を教えてください。



事務局

今年度の事業について

事務局では、滋事研Webに掲載している「要覧しが」を更新し、ダイアリー・会員名簿のデータ配布を行いました。また、関係団体からの調査に各市町にご協力いただき、回答を行いました。「学校事務ハンドブック」「記載例」等の改正点・修正点については確認作業を中心に取り組みました。

開催日	会議・事業名	会場	会議・事業案内
R4. 5. 13	第1回事務局会	コミュニティセンター なかさと	年間事業計画作成 部内組織決定 全事研5月期調査依頼
R4. 6. 30			会員名簿発行(データ配信)
R4. 7			要覧しが作成発行
R4. 11			全事研11月期調査依頼
R5. 3. 27			ダイアリー2023(データ配信)
随時			学校事務Web確認

今年度の事業を終えて(今後の課題)

コロナウイルス感染症拡大防止に関わって、引き続き会員の皆さまには、様々な対応をお願いすることが多くありました。急な連絡にもその都度、ご対応いただきありがとうございました。

事務局では引き続きダイアリー・会員名簿の発行を行いながら、滋事研Webに掲載している「学校事務ハンドブック」「こんなとき&チェックリスト」等の内容等を確認し、ニーズに合った内容の更新ができるように内容の検討を図っていきます。また、必要に応じて会員調査の実施を検討していきます。その中で各市町にて取り組まれている内容について、県内で共有できるような場の設定ができないか考えていきます。

滋賀の概要

☆地勢

日本列島のほぼ中央に位置し、伊吹山地、鈴鹿山脈、比良山地、野坂山地の山々に囲まれた盆地のなかに、県面積の約1/6を占める琵琶湖があり、四囲の山々を源とする大小120余の河川（一級河川）が、穀倉地帯と呼ばれている三角州や扇状地を潤して、湖にそそいでいる。

琵琶湖は、我が国最大の淡水湖で、年中豊富な水量をたくわえ、瀬田川から宇治川そして淀川となって、京阪神に貴重な水資源を供給し、一部は疎水となって、京都市民の大切な飲料水となっている。

県章



県木（モミジ）



県花（シャクナゲ）



県鳥（カイツブリ）



令和4（2022）年度

☆びわ湖フローティングスクール



滋賀県内の全ての小学5年生を対象に学習船「うみのこ」（湖の子）に乗船・航海し、宿泊をともなう教育を実施している。郷土への理解や対人・協調関係を養う「ふれあい体験学習」のほか、琵琶湖を教育の場所としていることから、環境を主なテーマとした「びわ湖環境学習」を行っている。

昭和58年8月の就航以来、49万人を超える子どもたちが乗船し、平成30年6月より、2代目学習船「うみのこ」が大津港から出航し、全102回の児童学習航海がスタートした。他府県の小学生にも学習の機会を提供し、県内の小学生とともに宿泊を伴う交流活動を行い、友情を育み、相互の交流を図っている。

さらに、県外の方にも乗船いただく親子体験航海や、航海当日乗船できなかった子どもたちを対象とした「湖の子」体験航海、教職員研修航海も実施している。



滋賀県公立小中学校事務研究協議会

琵琶湖データ



面積	670.25 km ²
周囲	235.20 km
貯水量	約275億m ³
最大幅軸	22.80 km (長浜市下坂浜町～高島市新旭町饗庭)
最小幅軸	1.35 km (大津市今堅田～守山市水保町)
水面標高	85.614 m
最大深	103.58 m (竹生島～安曇川河口間)

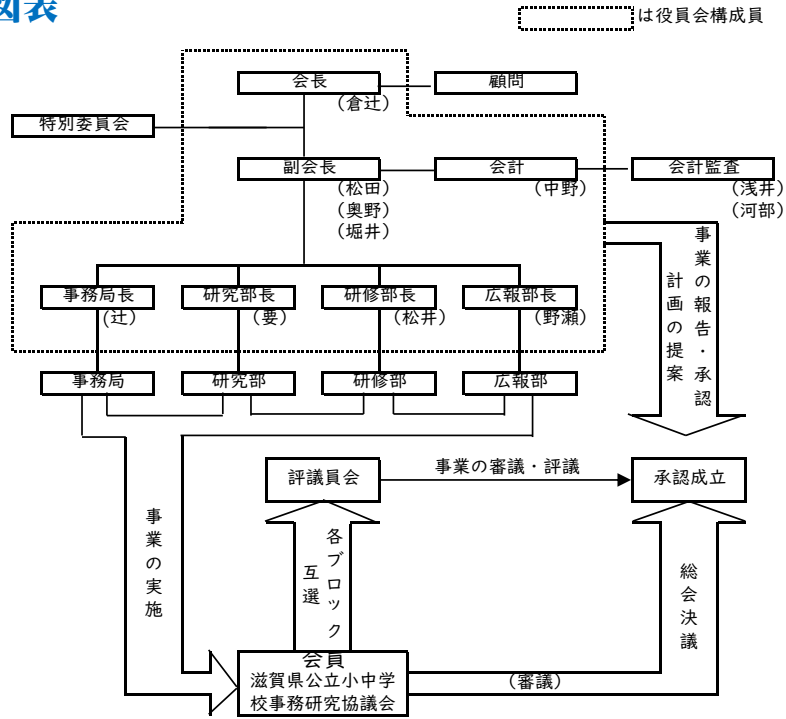
お問い合わせ先

会長 倉辻 弘美（今津東小学校）
〒520-1611 高島市今津町弘川59
<Tel 0740-22-2021 ・ Fax 0740-22-0021>

事務局長 辻 孝徳（中主中学校）
〒520-2412 野洲市六条377
<Tel 077-589-2036 ・ Fax 077-589-4978>

令和4年度滋賀県公立小中学校事務研究協議会

組織運営図表



令和4年度事務職員配置一覽表

(令和4年5月1日現在)

	学校数				未配置校数				複数配置校数				事務職員数				増減	
	小	中	義	計	小	中	義	計	小	中	義	計	小	中	義	計		
大津市	37	18	0	55	0	兼	1	0	1	16	8	0	24	53	25	0	78	0
高島市	13	6	0	19	1	0	0	0	1	1	0	0	1	13	6	0	19	0
草津市	14	6	0	20	0	0	0	0	2	2	0	4	16	8	0	24	0	
栗東市	9	3	0	12	0	0	0	0	1	2	0	3	11	5	0	16	0	
守山市	9	4	0	13	0	0	0	0	5	4	0	9	14	8	0	22	1	
湖南市	9	4	0	13	0	0	0	0	0	1	0	1	9	5	0	14	0	
甲賀市	21	6	0	27	0	0	0	0	1	6	0	7	23	12	0	35	0	
野洲市	6	3	0	9	0	0	0	0	3	2	0	5	9	5	0	14	1	
近江八幡市	12	4	0	16	0	0	0	0	3	1	0	4	15	5	0	20	1	
東近江市	22	9	0	31	0	0	0	0	2	2	0	4	24	11	0	35	1	
蒲生郡	7	2	0	9	0	0	0	0	1	0	0	1	8	2	0	10	0	
愛知郡	4	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	6	0	
犬上郡	6	3	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3	0	9	0	
彦根市	17	7	0	24	0	0	0	0	3	2	0	5	20	10	0	30	1	
米原市	9	6	0	15	0	0	0	0	1	0	0	1	10	6	0	16	0	
長浜市	23	10	2	35	0	0	0	0	2	1	2	5	25	11	5	41	0	
合計	218	93	2	313	1	兼	1	0	2	41	31	2	74	260	124	5	389	5

県費複数配置校

67校 (小学校 39校 中学校 26校 義務教育学校 2校)

大津市	24校	(小学校 16校 中学校 8校 義務教育学校 0)	高島市	1校	(小学校 1校 中学校 0校 義務教育学校 0)
草津市	4校	(小学校 2校 中学校 2校 義務教育学校 0)	栗東市	3校	(小学校 1校 中学校 2校 義務教育学校 0)
守山市	7校	(小学校 5校 中学校 2校 義務教育学校 0)	湖南市	1校	(小学校 0校 中学校 1校 義務教育学校 0)
甲賀市	3校	(小学校 1校 中学校 2校 義務教育学校 0)	野洲市	5校	(小学校 3校 中学校 2校 義務教育学校 0)
近江八幡市	4校	(小学校 3校 中学校 1校 義務教育学校 0)	東近江市	3校	(小学校 1校 中学校 2校 義務教育学校 0)
彦根市	5校	(小学校 2校 中学校 3校 義務教育学校 0)	長浜市	5校	(小学校 2校 中学校 1校 義務教育学校 2)
米原市	1校	(小学校 1校 中学校 0校 義務教育学校 0)	蒲生郡	1校	(小学校 1校 中学校 0校 義務教育学校 0)

研究協議会のあゆみ



昭和22年	* 県費事務職員4名配置 職名 地方事務官	平成10年	* 第27回研究大会を開催 (湖西ブロック担当)
昭和36年	* 滋賀県公立小中学校県費事務職員連絡協議会発足	平成11年	* 先進地視察研修実施
昭和39年	* 特別選考試験採用 職名 事務職員	平成12年	* 第5回近畿地区公立小中学校事務研究大会を主催
昭和41年	* 補職名発令 事務主事 事務主事補	平成13年	* 第28回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)
昭和42年	* 第1回昇任試験実施	平成14年	* 第29回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)
昭和43年	* 全国公立小中学校事務職員研究会設立準備委員会発足	平成15年	* 「40周年記念誌」発行
昭和44年	* 全国公立小中学校事務職員研究会発足	平成16年	* 第21世紀学校事務研究推進事業実施
昭和46年	* 滋賀県公立小中学校事務職員研究協議会発足	平成17年	* 第30回研究大会を開催 (彦根ブロック担当)
昭和47年	* 市町村費事務職員 研究協議会組織に一括加入	平成18年	* 第33回全事研 (三重大会) 提案
昭和48年	* 滋賀県小中学校教育研究会への加入が認められる	平成19年	* 第3分科会「... from Mother Lake」 - 発信! 発進!! 21世紀の学校事務職員の役割 -
昭和49年	* 学校事務職員採用試験制度導入	平成20年	* 滋賀県公立小中学校事務研究大会実施規程が改正される
昭和50年	* 第7回全事研 全国研究大会が 大津市で開催される 参加者2,500名	平成21年	* 第31回研究大会を開催 (本部担当)
昭和51年	* 第5回研究大会を開催	平成22年	* 第32回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)
昭和52年	* 研究協議会費値上げされる (700円→1,000円)	平成23年	* 特別委員会 (学校事務共同実施研究委員会・ 学校事務システム開発研究委員会) の設置 (2年間)
昭和53年	* 専門部 五部制を検討	平成24年	* 第33回研究大会を開催 (湖西ブロック担当)
昭和54年	* 役員選挙規程 (会長、副会長、会計の公選) が総会で議決される	平成25年	* 「学校事務・業務の共同実施実践マニュアル」発行
昭和55年	* 第6回研究大会を開催	平成26年	* 第34回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)
昭和56年	* 専門部 五部制が発足	平成27年	* 第37回全事研 (兵庫大会) 提案
昭和57年	* 第7回研究大会を開催	平成28年	* 第5分科会「経営スタッフとしての役割を考える ～資質能力の向上と事務部門の強化をめざして～」
昭和58年	* 会計監査の公選化が議決される	平成29年	* 滋事研会則改正 (市町村合併に伴うブロック再編・ 幹事会を評議員会に改正他)
昭和59年	* 第8回研究大会を開催	平成30年	* 第35回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)
昭和60年	* 全事研滋賀支部規約が臨時総会において可決成立	令和元年	* 「学校事務の評価観点における行動基準表」発行
昭和61年	* 第9回研究大会を開催	令和2年	* 特別委員会「学校事務共同実施組織連絡協議会」の設置
昭和62年	* 20年史編集委員会を設置	令和3年	* 特別委員会「学校事務システム開発研究委員会」の解散
昭和63年	* 学校事務ハンドブック編集委員会を設置	令和4年	* 第38回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)
平成元年	* 第10回研究大会を開催	令和5年	* 「共同実施モデルプラン 滋賀県バージョン (理論編)」発 行
平成2年	* 「学校事務ハンドブック」増刊号発行 (以後毎年度発行)		* 第39回研究大会 (第10回近畿地区公立小中学校 事務研究大会) を開催
平成3年	* 第11回研究大会を開催		* 50周年記念研修講座の開催
平成4年	* 「滋事研20年史」を発刊 (小中学校に配布)		* 「50周年記念誌」発行
平成5年	* 第12回研究大会を開催		* 学校事務共同実施特別委員会の設置 (2年間)
平成6年	* 会則改正 (特別委員会設置) が総会において議決される		* 第40回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)
平成7年	* 中長期研究推進、研修計画企画検討委員会を設置		* グランドデザイン「滋賀県版 学校事務の共同実施」作成
平成8年	* 要覧「しが」の発刊		* 第41回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)
平成9年	* 第13回研究大会を開催		* 第11回近畿地区公立小中学校事務研究大会 (奈良大会) 分科会提案「新しい学校事務の機能を探る2 ～事務職員から提案する学校間連携・地域連携とは」
平成10年	* 研究大会の持ち方についてブロックローテーション方式導入される		* グランドデザイン「リフレット」を県内全教職員に配布
平成11年	* 第14回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)		* 第42回研究大会を開催 (湖西ブロック担当)
平成12年	* 第15回研究大会を開催 (湖西ブロック担当)		* 学校事務ハンドブック編集委員会を廃止
平成13年	* 会則改正が、臨時総会において議決される		* 第43回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)
平成14年	* 会則改正により新たな研究会組織構成で運営される		* 第44回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)
平成15年	* 第16回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)		* 滋賀県版学校事務のハンドブック「淡海スタイル」発行
平成16年	* 研究会顧問を委嘱		* 第45回研究大会を開催 (本部担当)
平成17年	* 第17回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)		令和元年
平成18年	* 滋賀県教育公務員弘済会より研究助成金を交付される		* 第46回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)
平成19年	* 第18回研究大会を開催 (彦根ブロック担当)		平成30年
平成20年	* 第21回全事研 (奈良大会) 提案		* 全国公立小中学校事務研究大会 (千葉大会) 分科会提案
平成21年	* 第6分科会「望ましい物品管理を考える」		* 第48回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)
平成22年	* 滋事研創立30周年記念大会 (第19回研究大会) を開催		令和2年
平成23年	* 「30周年記念誌」発行		* 全国公立小中学校事務研究大会 (岡山大会) 分科会提案
平成24年	* 第1回近畿地区公立小中学校事務研究大会 (大阪市) 滋賀県発表		令和3年
平成25年	* 第20回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)		* 第49回研究大会を開催 (本部担当)
平成26年	* 学校事務フォーラムを開催		* 全国公立小中学校事務研究大会 (岐阜大会) 分科会提案
平成27年	* 第21回研究大会を開催 (湖西ブロック担当)		* 第50回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)
平成28年	* 第22回研究大会を開催 (湖北ブロック担当)		
平成29年	* 学校事務都市交流会助成事業実施		
平成30年	* 第2回近畿地区公立小中学校事務研究大会 (京都市) 滋賀県発表		
令和元年	* 第23回研究大会を開催 (湖東ブロック担当)		
令和2年	* 滋事研中長期研究研修計画検討委員会設置 (特別委員会)		
令和3年	* 第24回研究大会を開催 (彦根ブロック担当)		
令和4年	* 第25回研究大会を開催 (本部担当)		
令和5年	* 滋賀県公立小中学校事務研究大会実施規程が制定される		
令和6年	* 第26回研究大会を開催 (湖南ブロック担当)		
令和7年	* 滋事研会則改正が総会において議決される (平成10年度より役員任期2年となる)		
令和8年	* 第29回全事研 (大阪大会) 提案		
令和9年	* 第2分科会「学校経営に参画できる事務職員をめざして」		

歴代研究協議会会長

初代会長	山中 幸一 氏	第2代会長	松見 神竜 氏
第3代会長	日下 茂考 氏	第4代会長	中村 利夫 氏
第5代会長	朽木 円寿 氏	第6代会長	日下 茂考 氏
第7代会長	中村 利夫 氏	第8代会長	奥田 行雄 氏
第9代会長	大村 勇 氏	第10代会長	田中 孝夫 氏
第11代会長	松田 幸夫 氏	第12代会長	倉辻 弘美 氏

専門部・事務局活動概要

研究部	さまざまな教育改革に対応できる学校事務のあるべき姿や学校事務職員の果たす役割についての研究
研修部	会員の資質向上を目指すための研修企画・運営 (全体研修会・初任者研修会)
広報部	会員にとって、身近な話題や学校事務活性化につながる会報「さざ波」の発行および「ホームページ」による情報提供
事務局	「学校事務ハンドブック」の更新、「要覧しが」・「会員名簿」等の編集・発行、各調査の実施

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月8日

郡市名 大津市
代表者氏名 杉江 美雪 (仰木中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

学校運営と教育活動の向上・支援に繋げる学校事務職員を目指して

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
4月19日	事務部会全体会	11月15日	業務別研究会 地域協働
6月10日	研究推進委員会	11月21日	業務別研究会 地域協働
6月17日	事務部会全体会	11月25日	事務部会全体会
7月19日	事務部会全体会	12月6日	業務別研究会 ICT・業務改善、地域協働
10月17日	業務別研究会 ICT・業務改善、地域協働	1月24日	業務別研究会 地域協働
10月19日	業務別研究会 ICT・業務改善	2月17日	事務部会全体会

3 活動の具体的内容および成果

昨年度に引き続き、『学校に関わる全ての人達を笑顔にする活動』をコンセプトに地域協働、財務マネジメント、ICT・業務改善の3業務で研究活動を進めた。ますます多忙化する学校事務を協働する事で自校の学校づくりに力を注げるよう各業務で検討を進めた。今後も事務部会と地域マネジメント支援室が連携し、業務と運営が両立できる事務職員を目指す。今年度は各部会、一定の成果を得ることができた。

4 反省と今後の進め方

今年度も、一堂に会しての会議を開くことができなかつたがリモート活用が常態化してきたことで、場所を選ばず会議を行い、積極的に研究をすすめられたと感じる。

また、振り返りアンケートで現状把握・考察を行い、全事務職員の資質向上に向けた研修会を設定する。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

引き続き、大津市全事務職員の意識・資質向上に向け、関係各課と協働し研修体制を構築していく。

目指すべき事務職員像の実現に向け、大津市として進めようとしている取り組みを共通理解した上で「事務職員」だからこそできる新たな仕事を創造することが必要とされている。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月7日

郡市名 高島市

代表者氏名 荒木 啓輔 (今津中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

教育につなぐ、教育と地域をつなぐ、学校事務
～共同学校事務室からみる教育支援～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
令和4年5月6日	第1回高島市小中学校教育研究会事務部会	令和5年3月2日	第5回高島市小中学校教育研究会事務部会
令和4年6月8日	第1回高島市小中学校教育研究会事務部会 (研究推進委員会)		
令和4年9月13日	第2回高島市小中学校教育研究会事務部会		
令和4年11月25日	第3回高島市小中学校教育研究会事務部会 (第51回滋賀県公立小中学校事務研究大会)		
令和4年12月13日	第2回高島市小中学校教育研究会事務部会 (研究推進委員会)		
令和5年1月24日	第4回高島市小中学校教育研究会事務部会		

3 活動の具体的内容および成果

- ・昨年度作成した高島市共同学校事務室グランドデザインを参考に、各部会の重点目標を設定し、目標達成のための具体的な活動計画表 (プランニングシート) を作成した。このシートを活用して具体的な計画 (5W1H) を立て、出てきた案を実践し成果と課題を明確にすることができた。
- ・第53回滋事研研究大会分科会発表に向けて、オンライン配信であったが、発表の仕方や当日の様子など例年とは異なる視点を持って視聴するよう心がけた。

4 反省と今後の進め方

- ・プランニングシートの内容が、室長が取りまとめている共同学校事務室の評価内容と重なる部分が多かったため、シートの内容をもう少し検討する必要がある。
- ・令和5年度は湖西ブロックの全体会発表、6年度は分科会発表、7年度は全事研滋賀大会と大きい行事がたくさん控えている。それぞれの発表等に向けて必要な組織・資料を丁寧に作り上げていきたい。

5 郡市における学校事務 (職員) がにかかえる課題と問題点

- ・市内に学校事務職員未配置校 (1校) があり、学校運営に支障をきたしている。
- ・本市では学校徴収金を市教委から通達された「公金外現金の取扱い要領」に則り、学校事務職員は出納取扱者として担っている。預り金会計事務マニュアル (事務職員が中心になって作成し市教委から各校に通知された) に基づいた処理をしているが、公金に準じた取扱を求められ、年々事務量が増大している。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月15日

郡市名 草津市

代表者氏名 西邑 麻美 (志津小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

「一人ひとりが参画しよう 草津市すべての学校のために」

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
4月13日 3月3日	共同実施推進協議会全体会	6月9日 7月11日 9月15日 11月22日 1月13日 2月3日 (研修)	共同実施 キャリア開発部会
5月26日 1月31日 3月3日	共同実施推進協議会	6月16日 10月24日 11月17日 (研修)	共同実施 学習環境部会
毎月21日 (8月除く) 5, 11, 1月はオンライン	共同実施定例会 (グループ活動)	6月9日 7月14日 (研修) 9月27日 11月1日 2月17日	共同実施 機能強化部会
7月26日・8月1日 8月4日・8月8日	現地研修会 (高穂中・老上小・草二小・渋川小)	5月17日 6月23日 (研修) 7月8日 12月12日	共同実施 教育支援部会

3 活動の具体的内容および成果

【共同実施グループ活動】

情報共有などにより業務の支援や課題の共有を行ったり、給与諸手当認定事務審査会および事務調査の確認を市内小中学校事務職員全員で取り組んだ。経験の浅い事務職員も一緒に審査することにより、多くの事例に触れ、給与諸手当の知識を深めるよい機会にすることができた。

【各部会で研修会を実施】

文書管理、年末調整事務、旅費事務、学校徴収金事務について、4つのグループでそれぞれ企画し、初任者や経験年数の浅い職員向けに実施できた。

【現地研修会】

今年度から、現地研修会を実施した。他校との違いを再確認し、学校事務の業務改善をはかることや、実施者の企画・運営力を育て、マネジメント力が身につけられた。

4 反省と今後の進め方

共同学校事務室の活動は事務職員の業務に関することが主であり、地域協働・学校運営への参画について話し合う機会をあまり持つことができなかった。

今年度は参集型の会議が多く開け、活発な意見交換ができ、次年度につながる活動ができた。来年度は毎月の定例会後に各部会を持つことにより、出張日が減り、学校への負担も軽減できる。

5 郡市における学校事務 (職員) がにかかえる課題と問題点

初任者や経験年数の浅い職員への研修は組まれているが、中堅者 (事務主査) までの研修があまりできていない。草津市小中学校事務職員人材育成プログラムに基づき、キャリアに応じた研修プログラムを市教委と連携し、検討していく必要がある。系統的な人材育成や環境整備に関係機関と協働し、取り組んでいきたい。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月17日

郡市名 栗東市

代表者氏名 金井 志緒鯉 (金勝小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

コラボレーション！栗東～支え合い、共に働く組織の取り組み充実に向けて～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
令和4年 4月14日	栗東市小中学校教育研究会事務部会		
12月13日	栗東市小中学校教育研究会事務部会		
令和5年 2月7日	栗東市小中学校教育研究会事務部会研修会		

3 活動の具体的内容および成果

来年度の滋賀県公立小中学校事務研究大会分科会での発表に向け、研究テーマや発表内容等について協議した。

栗東市で進めている共同学校事務室の活動に着目し、現在の取り組みや、今後どのように活動を広げていけるか研究し、発表する方向で検討を重ねた。

部員全員の共通理解のため、共同学校事務室組織設置の経緯や今後の課題について研修した。

また、校区毎の共同学校事務室同士で意見を交流し、存在意義や組織の重要性について理解を深め、意識向上を図った。

4 反省と今後の進め方

事務部会では、共同学校事務室などの実務組織では得難い、資質向上につながる研修を今後も実施していきたい。

5 郡市における学校事務（職員）がかかえる課題と問題点

市内の事務職員数が限られた中で、次世代リーダーの育成を図っていく必要がある。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月17日

郡市名 守山市

代表者氏名 山田 絵里奈 (守山南中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

システムを活用した事務の効率化・平準化をめざして

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
4月11日	守山市教育研究会事務部会		
6月17日	滋事研研修総会		
8月29日	守山市教育研究会事務部会		
11月25日	滋事研研究大会 (野洲市と合同)		

3 活動の具体的内容および成果

6月の研修総会では人材育成指標の講義を聞き、本市でも研修制度の拡充について推進していく気持ちを新たにしました。11月の研究大会では県内の他市の実践を通して知識の向上につとめ、カリキュラムマネジメントについての理解を深めることができました。また、隣接する野洲市と合同でサテライト会場を設置したため、他市との意見交流ができ、たいへん有意義なものになった。

また、8月の市内研修会では、公立学校共済組合の年金担当の方を講師に迎え、年金関係・その他福利厚生関係の研修を行い、日頃の疑問を解消することができた。

4 反省と今後の進め方

昨年度より引き続き、新型コロナウイルスの影響があったが、6月の研修総会・8月の市内研修・11月の研究大会ともに参集型での開催ができ、情報交換等ができてよかった。来年度も状況を見ながら研究活動を進めたい。

研究テーマとしたシステム活用の点では、市共同実施システム部会での検討・作成等が主となった。今後はさらに連携を密にして、業務改善につながるよう研究をすすめていきたい。

5 郡市における学校事務 (職員) がかかえる課題と問題点

校種・学校規模・学校事情により各々校務分掌の負担の大きい部分があり、研修のために学校を出にくい状況になっていて研修が後回しになっている実態がある。市教委や共同実施組織と連携してさらなる効率化・平準化をすすめ、全員が十分に研修を受けられる体制を整えていきたい。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年 3月 2日

郡市名 湖 南 市

代表者氏名 西村 康恵 (下田小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

課題解決を実現させるための手立てを考える
～学校事務職員のスキルアップをめざして～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
5月24日	市学校事務部会総会	11月25日	滋事研研究大会 (サテライト会場でオンライン)
7月5日	第1回 研究会	1月30日	第4回 研究会
8月19日	第2回 研究会	2月24日	市学校事務全体研修会 (ICT)
8月25日	市学校事務全体研修会	2月24日	共同実施全体会・事務 部会総会
11月8日	第3回 研究会		

3 活動の具体的内容および成果

今年度、共同実施組織と連携して研修会を開催した。

8月の研修会では、昨年度同様会計年度任用職員の服務や給与等について学んだ。制度などが変わり、各々が不安を抱えていたが確認・情報共有することができ有意義な研修となった。

また2月には、昨年度より意見が挙がっていた「ICT」についての研修会を開催した。事前にアンケートを取り、ICTについてどこまでの知識があるかなどを確認した上で、事務職員として知っておきたい情報を共有することができた。

研究会では、令和5年度の分科会発表に向けて、準備委員会での活動がスタートした。どのような分科会発表にするか、全員から案を出してもらいながら来年度に向けて準備を進めていきたい。

4 反省と今後の進め方

- ・秋の予算要求に向けて、事務職員の総意として要望をあげていけるとよい。
- ・共同実施の再編～今までの取り組み内容について、来年度滋事研研究大会の分科会で発表したいと考えている。特に、事務職員の授業研究会への参加について取り上げていきたい。進めていく上で学校事務共同実施組織との連携、再編から今までの流れを整理する必要がある。

5 郡市における学校事務（職員）がかかえる課題と問題点

- ・事務職員が欠員となっている学校、欠員補充の臨時事務職員が増えてきており、新年度に初任者の配置や新たな臨時事務職員が配置される可能性もあり、十分な支援ができるのかという問題が生じている。
- ・主任事務主査が配置されておらず、初任者も続けて配置されるという状況で仕事の割り振りが難しく、一定の事務職員に負担がかかる状況となっている。
- ・市教委との連携が取れていない。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和 5年 3月 10日

郡市名 甲賀市

代表者氏名 戒能 晶成 (甲南中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

「事務職員としての理想と夢を探し、実現しよう」

第1期研究テーマ「甲賀流 忍法 知識武装の術!!～つかさどる事務職員へのスタートライン～」

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4. 6. 2	事務部会 (専門部会)	R4. 11. 7	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用2年目)
R4. 6. 23	事務部会 (専門部会)	R4. 11. 18	事務部会 (専門部会)
R4. 7. 5	事務部会 (総会・テーマ研修①)	R4. 11. 29	事務部会 (ポラリス研修講座 就学援助研修)
R4. 9. 6	事務部会 (専門部会)	R4. 12. 9	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用1年目)
R4. 10. 17	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用2年目)	R5. 1. 31	事務部会 (専門部会)
R4. 10. 18	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用3年目)	R5. 2. 3	事務部会 (ポラリス研修講座 キャリア研修)
R4. 10. 18	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用2年目)	R5. 2. 21	事務部会 (テーマ研修 ②研究報告)
R4. 10. 28	事務部会 (ポラリス研修講座新任 実地研修 (OJT) 採用3年目)	R5. 3. 9	事務部会 (専門部会)

3 活動の具体的内容および成果

今年度はポラリス研修講座の継続と、これまで停滞気味であった研究活動の活性化に注力し、具体的な研究実践として、以下の4つを行った。

①総会研修会にて中央研修受講者の研修報告を受け、研究テーマの共通認識を図った。

②具体的な知識を身に着けるため、こうか学びの研修で貧困についての講演を受けた後に、市子育て政策課より、甲賀市の現状や制度についての研修を行った。

③コロナ禍により参集型での研修が減少した中、学校事務職員の学ぶ機会の確保として、「じむけんらいぶらりー」と題し、仕事に関する本を購入し、感想の共有を行った。

④専門部員2人1組で研究テーマに関するレポートを作成した。

また、年度末には研究のまとめを作成し市内事務職員向けに研究活動報告を行った。

4 反省と今後の進め方

ポラリス研修講座では、エクセルシートに受講してみたい研修を各々入力し、入力した人と専門部で協力して研修を開催することとなっているが、エクセルシートに記入されることが少なくなっている。近年、市内事務職員の入れ替わりが激しいことが原因の一つと考えられるため、再度ポラリス研修講座の意図や開催方法などを周知する必要がある。

また、研究活動では、研修の受講などで知識を身に着けてもなかなか学校に還元されないことが課題として考えられる。そもそも甲賀市教育の充実振興を図ることが目的の研究組織であるため、どのようにして学校に還元していくかを今後検討していく必要がある。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

学校運営共同実施との関わりや地域学校事務室の運営におけるリーダーの負担。ベテラン層が減少していく一方、新規採用者数の増加。また、始まりつつあるコミュニティスクールへの参画方法について。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年 3月 23日

郡市名 野洲市

代表者氏名 辻 愛美 (野洲北中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

『学校全体を見わたせる事務職員をめざして』

～共同学校事務室設置に向けて野洲スタイルを考えよう～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4. 4. 12	教科主任会	R5. 1. 30	事務職員研修会
R4. 7. 26	夏季研修会	R5. 3. 23	事務部会

3 活動の具体的内容および成果

夏季研修会は、野洲市教育委員会学校教育課・生涯学習スポーツ課の参事を講師に迎え、児童生徒理解（生徒指導上の課題や関係機関との連携について）・地域学校協働活動と来年度から開始するコミュニティ・スクールに関するお話を頂き、野洲市の体制や学校事務職員としての役割等の知識を深め、理解することができた。

1月の研修ではオンライン（ZOOM）による愛媛大学院教育学研究科 露口 健司教授による講演を聴く事で学校・地域は勿論、先生と学校事務職員の信頼関係を構築することの大切さ、学校現場が求めている働き方改革を知り、講演の後は野洲市共同学校事務室設置が設置された際のそれぞれの考えについて意見交流を行った。

4 反省と今後の進め方

市教育委員会とともに研修の場を設け、今年度については知りたい質問を事前にまとめて提出する事で研修内容にとりいれて頂くことができ、有意義な研修内容になった。共同学校事務室設置に向けての研修内容、時期について検討を進めていきたい。

5 郡市における学校事務（職員）がかかえる課題と問題点

本市は事務職員の人数が少ないうえに、新しいシステムの導入に係る作業を分担して進めなければならないため、時間を確保するのが困難であり事務部会の活動が停滞してしまう。研修の場を設けるための工夫が課題である。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月8日

郡市名 近江八幡市

代表者氏名 西本優子 (島小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

チーム学校の一員として…学校事務職員からのアプローチ
～教育支援と学校運営参画をめざして～

2 活動の経過

実施年月日	事業名
令和4年5月10日	近江八幡市小中学校教育研究会 事務部会
令和4年10月25日	近江八幡市小中学校教育研究会 事務部会全体研修会 ①年末調整事務について 講師：近江八幡税務署員 ②八幡中学校区地域学習 八幡中学校1年生フィールドワーク事前学習用DVD視聴
令和5年3月7日	近江八幡市小中学校教育研究会 事務部会

3 活動の具体的内容および成果

- 10月の全体研修会では、年末調整事務について近江八幡税務署員の方を講師にお招きし、研修を行なった。税務署員から直接お話を聞ける貴重な研修で、直近の年末調整事務に役立てることができた。

地域学習の一環として八幡中学校区内のフィールドワークを行う予定だったが、日程の関係で今回は見送り、代わりに八幡中学校1年生フィールドワーク事前学習用のDVDを視聴した。このDVDは八幡中学校の教員が制作されたもので、校区内のことが分かりやすくまとめられており、地域のことをもっと知りたい、実際に訪れてみたいと思える興味深い内容であった。事務職員にとっても、地域を知ることは大切なことなので、地域への理解を深める良い機会となった。

- 3月の全体会では、2名の事務職員による研修報告を行い、情報共有ができた。コロナ禍で全体会が持てなかった年度もあったので、久々の研修報告は新鮮で良い刺激になった。

4 反省と今後の進め方

今後もチーム学校の一員として、学校運営への積極的な参画と教育支援を推進していきたい。共同学校事務室と各地域別部会が連携しながら、より良い学校づくりを目指して取り組んでいきたい。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

毎年度、振り返りシートによりアンケートをとっているが、事務職員からの情報発信(児童生徒、保護者、教職員、地域など)の部分が弱いという回答が多く、今後の課題として取り組んでいきたい。

管理職や教職員と連携しながら、学校運営に参画できている業務の継続と発展、参画できていない業務への参画意欲を高められるように取り組んでいく必要がある。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年2月17日

郡市名 東近江市

代表者氏名 安江 美希 (蒲生北小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

「教育を支援する学校事務職員をめざして」
～学校事務職員のつなぐ役目とつながる可能性～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4. 5. 10	第1回研究推進委員会	R4. 10. 24	第7回研究推進委員会
R4. 6. 27	第2回研究推進委員会	R4. 11. 14	第8回研究推進委員会 全員研修会「プレ発表」
R4. 7. 19	第3回研究推進委員会	R4. 12. 16	第9回研究推進委員会
R4. 8. 23	全員研修会 第4回研究推進委員会	R5. 2. 17	第10回研究推進委員会
R4. 9. 16	第5回研究推進委員会		
R4. 10. 4	第6回研究推進委員会		

3 活動の具体的内容および成果

【活動内容】

今年度は、研究大会の分科会という大きな発表の機会があったため、それに重心を置き活動した。令和2・3年度の困り感解消のために作り出したソフトやシステムなどの成果物が、実際の日常業務において、どこまで活用できるかということを各校で検証し、その内容も含めて分科会発表を行った。

【成果】

東近江市は、会員人数が多く、一部の人の研究になりがちであるが、今回は「困り感に向き合った課題解決方法を探る」ということもあり、多くの会員が自分ごととして取り組むことができた。また、分科会のプレ発表を全員研修会として行うことで、いろんな視点から、改善点や課題を出すことができ、分科会発表がよりよいものになった。

何より、研究会で考えた成果物が、私たちの日常業務を助け、またそれがの困り感を助けるものに繋がったことは、事務職員としてつなぐ役目を果たせたのではないかと考える。今回の発表内容は、ICTを活用したものが中心だったが、ICTに対して苦手意識のある者へのサポートも若い人材が積極的に進めてくれた。市内全体でサポートしあえたことが大きな成果となった。

4 反省と今後の進め方

今回、困り感から生まれた成果物を教職員全体に周知することはできなかった。来年度以降、市内教職員に広げる何らかの手立てを考えていきたい。また、研究大会で講師の廣田先生に教えていただいた「教育を支援する」事務職員から、「教育を創造する・生み出す」事務職員へのソフトチェンジも考えなければならない。コロナ禍で生まれた「課題解決シミュレーション研修」を生かしながら、またみんなで模索していきたい。

5 郡市における学校事務（職員）がかかえる課題と問題点

本市は、会員人数が多いこともあるが、積極的に研究会活動を行う者が固定化してきており、会員によって研究会への関わりに温度差がある。いかに全体が関われる研究会活動を行うのか、今後も手立てを考えていきたいと思う。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月10日

郡市名 蒲生郡

代表者氏名 澤 香代子 (必佐小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

「2町をつなげる共同実施」 ～ 共同学校事務室の在り方を探る～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
4月22日	郡事務職員研究会	随時	各町事務職員研究会
6月7日	郡事務職員研究会 (Zoomによるオンライン)		
7月7日	郡事務職員研究会 (郡初任者研修)		
10月27日	資質向上研修 (広域研修講座と兼ねる)		
3月10日	郡事務職員研究会		

3 活動の具体的内容および成果

「2町をつなげる共同実施」というテーマのもとで、同一日に2町が研究会をおこないZoomでつなぐという新しい取り組みをおこなった。コロナ禍において地理的にも離れている2町にとっては、有効であった。

また、蒲生郡新規採用教職員の初任者研修での給与・福利厚生などの説明は恒例となり、毎年説明時間の確保をしていただけるようになった。東近江地域における広域研修講座においては、郡単独では講師招聘が困難であるため他市町と合同での研修は貴重な機会となった。

4 反省と今後の進め方

2町ともに各町における研修が主となったため、郡全体で研修の機会を持つことが困難であった。それぞれの町での研修成果を2町で共有し、深めていくことが今後も必要である。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

小規模・2町・地理的な制約があり、蒲生郡としての活動は難しい。

また両町ともに初任者を迎え、町単位の研修の充実に力を入れたため、結果的に郡としての活動の機会は少なくなった。

令和 4 年度 郡市研究活動報告書

令和 5 年 3 月 31 日

郡 市 名 愛知郡

代表者氏名 馬場 美和子 (秦荘西小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

「業務改善からみえた人材育成」

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4. 4. 20	共同実施推進委員会	R4. 10. 4	共同実施推進委員会
R4. 5. 2	共同実施推進委員会	R4. 11. 8	愛犬事務職員合同研修会
R4. 5. 17	愛犬事務職員代表検討会	R4. 11. 11	共同実施推進委員会
R4. 5. 27	愛犬事務職員合同研修会	R4. 11. 25	滋事研研究大会 分科会発表
R4. 5. 31	共同実施推進委員会	R4. 12. 13	共同実施推進委員会
R4. 7. 1	共同実施推進委員会	R4. 12. 19	愛犬事務職員合同研修会
R4. 8. 1	共同実施推進委員会	R4. 12. 27	共同実施推進委員会
R4. 8. 8	愛犬事務夏季合同研修会	R5. 1. 26	愛犬地区初任者研修 (学校事務説明講師)
R4. 8. 22	共同実施推進委員会 (学年費引落部会)	R5. 3. 7	共同実施推進委員会
R4. 9. 1	共同実施推進委員会	R5. 3. 27	共同実施推進委員会
R4. 9. 15	愛犬事務職員合同研修会		

3 活動の具体的内容および成果

今年度は、愛知郡・犬上郡合同で滋事研研究大会の分科会発表を担当することになったため、愛犬事務職員合同研修会を数回開催して発表準備を進めた。合同で開催することにより、郡同士の交流を通してお互いの取組状況等を知ることができて刺激を受け、自分たちの活動の課題点等について見直すきっかけとなった。分科会発表については、少人数のため全員で役割を分担して取り組んでいたが、特に若手の方たちが意欲的に取り組み成長した姿を見せてもらうことができて頼もしく感じられた。また、3学期には愛犬地区の初任者を対象とした研修の中の1項目として「学校事務説明会」を行うため、愛犬事務職員合同研修会の場で何度も協議を行い準備を進めた。その資料を作成すること等により、学校事務職員としての自分の仕事を深く考えることができて自己研鑽につながった。

毎月の共同実施推進委員会も町教委の方を交えて財務関係のことなど具体的に協議を行うことができ、学校施設の管理や業務改善を効果的に行うことができた。

4 反省と今後の進め方

愛知郡には経験年数が10年を満たない事務職員が全体の半数となり、研修について早急に進めていけないところだが、少人数であり郡内だけではなかなか進まない状況である。昨年度は新規採用者がいたこともあり、近隣の大きな市に声をかけてもらい何回か研修に参加させてもらうことができて大変助かっている。また、昔から愛知郡と犬上郡とで毎年合同研修会を行っており、そちらの単位で研修を進められないかという話もあがっており、まだ方向性は定まっていないが、近隣の市町と検討を重ねてよりよい方向へと進めていきたい。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

愛知郡は事務職員6名で活動しており少人数のため多様な課題に取り組むことが難しい。また、町の財務関係の仕事が非常に多く、自校の仕事に追われて研究等に取り組む時間がとれない。そのため、共同実施推進委員会において町教委へ業務改善に向けての取組を提案しており、可能なことから少しずつ改善しているところもあるが、なかなか大きな改善とまではつなげない。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月10日

郡市名 犬上郡

代表者氏名 松本 清爾 (甲良東小学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

『活かそう！ 町の共同実施を郡へ』
～ つぎの一步を踏み出すために ～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4.4.28	教科等主任会	R4.9.15	愛犬事務職員研修会
R4.5.27	愛犬事務職員研修会	R4.10.20	郡事務職員研修会
R4.6.23	郡事務職員研修会	R4.11.8	愛犬事務職員研修会
R4.8.1	郡事務職員研修会	R4.11.25	県事務研究大会分科会発表
R4.8.8	愛犬事務職員研修会	R4.12.19	愛犬事務職員研修会
R4.8.23	郡事務職員研修会	R5.1.26	愛犬地区初任者研修講師
R4.9.1	郡事務職員研修会	R5.2.24	郡事務職員研修会

3 活動の具体的内容および成果

犬上郡事務職員研修会では、研究大会分科会で「小さな3町、3人の事務職員での共同実施の取組と、今後どのように発展させていくのか」を柱に犬上郡の各町の現状を報告した。発表に向けて研究紀要、原稿、動画撮影等担当ごとに活動した。各町の活動を情報交換することにより、共同実施の活動内容を広げていくこと、また「事務をつかさどる」学校事務職員として学校運営参画など各自の意識向上につなげることができた。

また、愛知郡事務部会と合同で取り組んで10年目となった愛知・犬上地区初任者研修会では、アンケート結果等の反省点等を参考にしながら資料やパワーポイントなどに修正を加え、内容ごとの担当を毎年輪番で行うことにより、事務職員の知識向上につなげている。

4 反省と今後の進め方

今年度の活動は分科会発表に向けての活動が中心となってしまった。分科会発表に向けての動画撮影、編集作業を通じてICTの研修や知識の必要性を痛感した。

また、今後も各町の共同実施の取組を定期的に交流し、「学校事務の適正かつ円滑な執行及び事務機能の強化」を図ることや、OJTの実施による事務職員の育成及び資質の向上を目指したい。

また「愛犬初任者研修」での説明は毎年好評を得ている。今後もわかりやすく伝えられるように、事務職員のプレゼンテーションスキルの向上を目指したい。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

日々の業務は町単位であるため、郡の研究会等との結び付けが難しい。

3町とも3校3人の事務職員であることから、ひとりの負担が大きくなっている。

教育委員会も少人数であることから、人材育成指標を受けての研修プログラム作成も事務職員任せになる可能性がある。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月1日

郡市名 彦根市

代表者氏名 尾木 百合恵 (稲枝中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

実践力のある事務職員の育成

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
5月14日	教科等主任会(事務部会)、彦根市立学校事務職員研究協議会総会		
6月17日	滋賀県公立小中学校事務研究協議会研修総会		
8月18日	研修講座		
11月25日	滋賀県公立小中学校事務研究大会		
2月17日	彦根市立学校事務職員研究協議会臨時総会		

3 活動の具体的内容および成果

6/17の研修会には市内事務職員30名中24名の参加ができました。研修会では県教委教職員課給与係長福永様より人材育成指標についてお話を伺いました。一つ一つ丁寧に説明していただいたので、自身のステージにおいて備えていなければならない資質能力を改めて確認することが出来ました。自身のステージにあった役割を果たしているか見つめ直す良い機会となりましたし、果たせていない部分については達成できるように努力をしなければいけないということを考えさせられました。また、次のステージへ上がったときに求められる能力についても確認出来て良かったです。

8/18の研修講座には、遠方での開催だったにもかかわらず市内から12名の参加ができました。研修会では横浜市立日枝小学校の事務職員うわべの上部様より「職員室リノベーション」のお話を伺いました。「戻りたいと思える職員室づくり」の実践例を楽しく伺うことが出来ました。印象に残った言葉は『「何をするか」ではなく「何のためにするのか」から考えることが大切だ』という言葉でした。

11/25の研究大会にも多数ご参加いただきました。

4 反省と今後の進め方

令和4年度は滋事研の研修会に積極的に参加することを彦事研の主な取組としていましたので、彦事研独自の研修会の企画は行いませんでした。滋事研の研修会の参加率が上がって良かったと思います。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

- ・世代交代による次期人材の育成
- ・共同実施組織や共同学校事務室の取組み方

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和 5年 3月 1日

郡市名 米原市

代表者氏名 西田 奈巳 (米原中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

働き方改革のための組織的な学校事務
～魅力あるOJTの充実～

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
令和4年5月17日	米原市事務職員研修会 (全体会)		
令和4年8月3日	米原市事務職員研修会 (Teams研修会)		
令和4年8月8日	夏季教職員研修講座 (学校運営講座)		
令和4年11月25日	第51回滋賀県立公立小中 学校事務職員研究大会		
令和5年2月10日	米原市事務職員研修会 (全体会)		

3 活動の具体的内容および成果

本年度は米原市共同学校事務室が設置されて2年目の年であり、様々な工夫をしながら会議を開催した。その結果、昨年度よりさらに「事務室の一員」としての意識が高まった。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、参集型の会議が難しくなることに備え、全員でTeams研修を受け、新しい会議の可能性が見えた。

今年度初めて米原市教育委員会主催の研修会に、事務職員も参加できる会議が増えたことにより、学びの場が広がった。

4 反省と今後の進め方

事務室3年目に向け、さらに全員の共通理解を深め、事務室運営にかかる研修が必要。

また、事務職員の校務運営への参画のために必要なスキルアップや、人材育成指標に応じた研修会も必要である。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を多く受け、それに伴う日々の業務増加により事務職員の負担が多くなった。

持続可能な事務室を目指し、個々が関わっていく中で負担にならないよう、今後も働き方改革を念頭に置き工夫していく必要がある。

今後、校務運営に参画するうえで、事務職員に求められるスキルは増えることが予想される。そのための研修会が必要になっていくと思う。

令和4年度 郡市研究活動報告書

令和5年3月13日

郡市名 長浜市

代表者氏名 出雲 真紀 (浅井中学校)

1 活動内容 (研究テーマ)

事務職員の資質向上と共同実施の推進

2 活動の経過

実施年月日	事業名	実施年月日	事業名
R4.5.9	事務部会 共同実施全体会	R4.7.26	実務研修 (学校財務)
R4.6.9	実務研修 (旅費請求事務)	R4.11.18	実務研修 (年末調整事務)
R4.6.23	実務研修 (学校徴収金の取扱い)	R4.12.2	全体研修会 「事務職員から発信するマネジメントと地域協働」
R4.7.26	実務研修 (ICTの活用)	R5.3.3	事務部会 共同実施全体会

3 活動の具体的内容および成果

今年度は共同実施の活動と連携し、希望者が参加できる実務研修を定期的実施した。経験年数の浅い事務職員が多いため、実務研修を行うことにより各校で適切な事務処理ができるようサポートした。経験年数の浅い事務職員以外も普段の事務処理の確認ができる機会となった。

また、全体研修会では、新潟市立白根第一中学校 総括事務主幹 松野千恵美様に「事務職員から発信するマネジメントと地域協働-共同学校事務室の可能性について-」という内容でご講演をいただき、活動についてのお話を聞かせていただいた。長浜市の教育ビジョンを実現・課題解決するために、行政・学校・共同学校事務室がそれぞれどのような役割を担っていくのか方向性を見出すことができた内容であった。

4 反省と今後の進め方

日々の業務に追われ学校を出ることが難しく、研修の機会を設けても参加してもらうことが難しい現状がある。伝達講習や共同実施の中で連携をとることにより、市内学校事務職員のニーズに応じた研修ができるよう、内容や実施方法についても検討していきたい。

5 郡市における学校事務(職員)がかかえる課題と問題点

事務職員に求められることが多様化する中で、事務職員の多忙感は増加の一方である。共同学校事務室の設置によって、学校事務全般の効率化、平準化、適正化を図るとともに、管理職や教育委員会に更なる理解と協力を求めていく必要がある。

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受けながらも、参集型での会議やオンラインでの会議を行うなど、現地とオンラインのそれぞれの両方のメリットを踏まえて研究会活動の推進を実践しました。令和の日本型教育の構築に向けた今後の方向性においては、現地か、オンラインかの「二項対立」の陥穽に陥らないよう、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていくことが求められています。デジタル庁らが発表した教育のデジタル化のミッションとして、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」が掲げられているなか、本会でも今後も、「創造しよう!教育を活かす学校事務を」の基本理念のもと、事務職員の人材育成指標に沿いながら、事務職員のあるべき姿を求めて研究を進めていきたいと思ひます。

ここに、今年度の研究のまとめ「いぶき」を発刊し、多くの方からのご教示をいただき、次代を担う子どもたちの豊かな育ちのため、さらに取り組んでいきたいと思ひます。

令和5年(2023年)3月31日 発行

発行者 滋賀県公立小中学校事務研究協議会

会長 倉辻 弘美

滋賀県高島市今津町弘川59

高島市今津東小学校

電話 0740-22-2021

編集発行 滋賀県公立小中学校事務研究協議会 事務局